

入 札 説 明 書

市が行う建設工事の工事希望型指名競争入札を下記のとおり行いますから、希望があれば米子市建設工事執行規則（平成17年米子市規則第106号）及び米子市会計規則（平成17年米子市規則第44号）を承知のうえ参加してください。

記				
工事希望型指名競争入札に付する工事	工 事 名	市道上後藤下三柳線大沢川1号橋ほか2橋りょう補修工事		
	工 事 場 所	米子市両三柳、新山地内ほか	工期	契 約 日 から 令和4年2月28日まで
契 約 条 項 を 示 す 場 所		米子市総務部契約検査課		
担 当 課		都市整備課		
入札保証金に関する事項		入札保証金	免除	
現 場 説 明 会		なし		
開 札 の 日 時 及 び 場 所		日時 場所	令和3年11月16日 午前9時50分 本庁舎202会議室	開札
契 約 保 証 に 関 する 事 項	請負代金の額が130万円を超える工事については、契約の締結と同時に請負代金額の10分の1以上の額を保証する次の各号の一に掲げる保証を付さなければならない。 (1) 契約保証金の納付 (2) 契約保証金に代わる担保となる有価証券等の提供 (3) 銀行若しくは市長が確実と認める金融機関又は保証事業会社（公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社をいう。以下同じ。）の保証 (4) 公共工事履行保証証券による保証 (5) 履行保証保険契約の締結			
前 払 金	有	40%以内 ※ただし、請負代金の額が130万円を超える場合に限り		
部 分 払	有	回数は、米子市建設工事執行規則による ※部分払いに替えて中間前払の選択も可		
入札に関する 注 意 事 項	1. 開札前天災地変等のやむを得ない事由が生じたとき、又は競争の意思がないと認められるときは、入札の執行を中止し、又は取り止めることがある。 2. 入札参加者が1者であっても、入札を執行するものとする。 3. 入札に参加する者に必要な資格のない者のした入札及び米子市郵便入札実施要領第4条に定める入札は、無効とする。 4. 入札者は、到達した入札書は、書換え、引換え又は撤回することができない。 5. 入札者は、入札書到達後においても入札執行の完了までは入札の参加を辞退することができる。 6. 落札となるべき価格と同一価格の入札をしたものが2人以上あるときは、当該入札者にくじを引かせて、落札者を決定するものとする。この場合において、くじを引くべき入札者が、当該入札の立会者として参加している場合はその者が、参加していない場合は入札事務に関与しない職員に当該入札者に代わってくじを引かせるものとする。 7. 本件工事は、米子市建設工事最低制限価格設定要領に定める方法により、予定価格の2/3(ただし、8/10を下回る場合は、8/10とする。)以上で最低制限価格を設定しており、最低制限価格を下回る価格で入札があった場合は、当該入札者を失格とし、予定価格の範囲内の価格で入札した他の者のうち最低の価格をもって入札した者を落札者とする。 8. 入札書に工事費内訳書が同封されていない場合は、無効とする 9. 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に10%に相当する額を加算した金額をもって落札価格(円未満切捨て(単価契約を除く。))とするので、入札者は、消費税に係る課税業者であるか免税業者であるかを問わず、見積った契約希望価格の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。 10. 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22年法律第54号)等に抵触する行為を行ってはならない。 11. 入札回数は、1回とする。			
そ の 他 の 注 意 事 項	1. 米子市工事希望型指名競争入札実施要領に定める経営内容等が不健全な申込者及び工事成績が不良な申込者は、不指名とすることがある。また、同一入札における資本的、人的関係にある複数の申込者のうち1者のみを指名し、他の者を不指名とすることがある。 2. 申込時に届けのあった配置予定技術者の変更は、入札書差出期限まで変更可能とし、その後の変更は原則として認めないものとする。 3. 同一の主任技術者は、米子市が発注した工事(通常型指名競争入札及び随意契約によるものを除く。)に3件を超えて従事することはできないものとする。 4. 別に定める「建設工事に係る配置予定技術者の取扱いについて」における重複申込者に該当する者は、配置予定技術者重複届出書を所定の方法により提出すること。なお、入札結果により配置予定技術者がいなくなった場合は、失格とする。 5. 工事現場に配置する技術者等(主任技術者、監理技術者及び現場代理人をいう。)は、当該建設業者と直接的かつ恒常的な雇用関係(第三者の介入する余地のない雇用に関する一定の権利義務関係が存在することをいう。)が申込日までに3ヶ月以上ある者に限るものとする。			
施工に関する 注 意 事 項	1. 工事設計図書 別紙のとおり 2. 本工事の施工にあたっては、鳥取県制定「土木工事共通仕様書」、「土木工事施工管理基準」、「公共建築工事標準仕様書」又はその他別に定める仕様書等に基づき実施しなければならない。 3. この契約に係る工事の施工にあたっては、ダンプカー協会加入車を優先的に使用するよう努めること。 4. 工事着手前に自治会長及び地元関係者に連絡すること。			
米子市建設工事執行規則第14条により公にする予定価格				
最低制限価格 (直接工事費＋共通仮設費＋現場管理費の9/10＋一般管理費5.5/10)×1.1				
¥24,908,400				

工事設計書

令和3年度	工事名	市道上後藤下三柳線大沢川 1 号橋ほか 2 橋りょう補修工事				
工 事 概 要		部 長	課 長	担当課長補佐	審 査	設 計
設計金額	円					
工事期間	契約日から令和4年2月28日 まで					
工事場所	米子市 両三柳、新山 地内ほか					
工事概要	大沢川 1 号橋 橋長L=7.6m 幅員W=8.4m 新山4号線 1 号橋 橋長L=6.3m 幅員W=13.2m 吉谷古市新山線 1 号橋 橋長L=4.5m 幅員W=4.5m					
	橋梁付属物工 1式		橋梁付属物工 1式		舗装工 1式	
	橋梁補修工 1式		橋梁補修工 1式		橋梁付属物工 1式	
					橋梁補修工 1式	
					仮設工 1式	

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る特記仕様書

1 目的・主旨

本特記仕様書は、工事及び業務（以下「工事等」という。）における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に必要な事項を定めたものである。受注者は本特記仕様書に従って感染拡大防止に取り組むとともに、感染者等が確認された場合には発注者に速やかに報告するなど、感染拡大防止に向けて適切に対応すること。

2 感染拡大防止に向けた取組

(1) 現場等における感染拡大防止対策

次の感染拡大防止対策を徹底すること。

- ① 工事の現場等においては、現場状況などを勘案しつつ、アルコール消毒液の設置や不特定の者が触れる箇所の定期的な消毒、手洗い、うがいなど、感染予防の対応を徹底するとともに、発熱症状がみられる者の休暇の取得など、すべての作業従事者等の健康管理に留意すること。
- ② 元請事業者をはじめ、下請事業者や技能者など、施工に携わるそれぞれの立場において、極力、三つの密を回避する対策やその影響を最大限軽減するための行動をとること。特に、建設現場における朝礼・点呼や現場事務所などにおける各種の打合せ、更衣室等における着替えや詰め所などでの食事・休憩等、現場で多人数が集まる場面や密室・密閉空間における作業などにおいては、他の作業員と一定の距離を保つことや作業場所の換気の励行など、感染防止対策に取り組むこと。また、別紙の「3つの密を避けるための手引き」を全ての作業従事者に周知するとともに、現場事務所等で掲示（掲示は工事のみ）を行い、三つの密の回避や影響を緩和するための対策に万全を期すこと。
- ③ 作業従事者（下請授業者含む）が、鳥取県の指定する感染流行嚴重警戒地域（V）、感染流行警戒地域（IV）から新たに転入（通勤者を除く）する場合は、転入する前の14日間はやむを得ない場合を除き外出を自粛し、その後にPCR検査を実施し陰性であることを確認した上で、その結果を事前に監督員等に報告し転入すること。また、感染流行嚴重警戒地域（V）、感染流行警戒地域（IV）の指定が無い場合においても、緊急事態宣言区域及びまん延防止等重点措置区域から新たに転入（通勤者を除く）する場合は、転入する直前にPCR検査を実施し陰性であることを確認した上で、その結果を事前に監督員等に報告し転入すること。なお、PCR検査実施後は、やむを得ない場合を除き外出を自粛すること。外出自粛中の行動履歴及びPCR検査結果については、確認することのできる書類を転入前に監督員等に提出すること。このPCR検査に要する費用については、感染防止対策に係る経費として設計変更の対象とするため、事前に監督員等に協議すること。

(2) 県外製作工場での監督員等の立会に検査（出来形・品質）

県外の製作工場における監督員等の立会による検査は行わないこととする。なお、受注者は自主検査を行い、検査結果を監督員に提出し、監督員は書面で検査結果の確認を行うこととする。

(3) 工事等の書類の提出及び受発注者間の打合せ

書類の提出及び受発注者間の打合せは次のとおりとする。

① 書類の提出について

ア 書面による指示、承諾、協議、提出、提示、報告及び通知は、やむを得ない場合及び契約関係書類を除き電子メールにより提出することとする。

※契約関係書類：契約書、現場代理人選任（変更）通知書、主任技術者等（変更）選任通知書、工程表、完成通知書、請求書、工事出来形部分等確認願

イ 押印書類は押印後にスキャンし、PDFに電子化したうえで電子メールにより送付する。

受理、承諾等の押印後は、押印後の書類を電子化し相手方に電子メールにより送付する。

ウ 発注者又は受注者の環境、添付書類が多く電子化することが困難な書類など、電子メー

ルによる送付が困難な場合は、事前に監督員等と協議を行うこと。

② 受発注者間の打合せ

ア 打合せは、事前に電子メールなどにより打合せに必要な書類を提出したうえで、WEB会議システム、電話、情報共有システム等を活用し、やむを得ない場合、現場立会を除き、対面による打合せは行わないこととする。

イ やむを得ず対面による打合せを行う場合、現場立会を行う場合は、以下の点に留意すること。

- ・①密閉空間、②密集場所、③密接場面の3つの条件を避けること。
- ・最小限の人数で実施するよう双方で働きかけを行う。
- ・マスク着用を推奨する等、感染予防を徹底する。
- ・打合せ等に参加した全員の氏名を受発注者双方で記録すること。

3 感染拡大防止対策に係る経費の設計変更

追加で費用を要する新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を実施する場合には、実施内容について発注者と協議を行い、必要と認められる対策については、変更施工計画書（又は変更業務計画書）を提出すること。なお必要と認められる対策については、設計変更の対象とする。

4 感染等が確認された場合の対応

新型コロナウイルス感染症の感染等が確認された場合には、別紙1及び別紙2により対応すること。

5 新型コロナウイルス感染症に係る工事等の一時中止措置等について

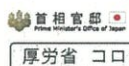
新型コロナウイルス感染症の罹患や学校の臨時休業等の感染拡大防止措置に伴い技術者等が確保できない場合、また、これらにより資機材等が調達できないなどの事情で現場の施工を継続することが困難となった場合のほか、受注者から一時中止や工期又は履行期間の延長（以下「一時中止等」という。）の申出があった場合においては、一時中止等を希望する期間のほか、受注者の新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組状況、地方公共団体からの活動自粛要請等の事情を個別に確認した上で、必要があると認められるときは、工期の見直し及びこれに伴い必要となる請負代金額の変更、一時中止の対応等、適切な措置を行う。

6 下請負人への配慮及び元請負人と下請負人との間の取引の適正化

下請契約においても、工期の見直しや一時中止の措置等を適切に講じるとともに、請負代金の設定及び適切な代金の支払など、元請負人と下請負人との間の取引の適正化のより一層の徹底に努めること。

3つの密を避けるための手引き!

- 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、咳エチケット、手指衛生等に加え、**「3つの密(密閉・密集・密接)」**を避けてください。
- 3つの密が重ならない場合でも、リスクを低減するため、できる限り**「ゼロ密」**を目指しましょう。
- 屋外でも、密集・密接には、要注意。人混みに近づいたり、大きな声で話しかけることなどは避けましょう。



厚生労働省フリーダイヤル

厚労省 コロナ

検索

0120-565653



①「密閉」空間にしないよう、こまめな換気を!

「部屋が広ければ大丈夫」、「狭い部屋は危険」というものではありません。カギは「換気の程度」です。WHOも、空気感染を起こす「結核・はしかの拡散」と「換気回数の少なさ」の関連を認めています。

窓がある場合

- ・風の流れることができるよう、**2方向の窓を、1回、数分間程度、全開**にしましょう。換気回数は**毎時2回以上**確保しましょう。
- ・窓が1つしかない場合でも、入口のドアを開ければ、窓とドアの間に空気が流れます。扇風機や換気扇を併用したり工夫すれば、換気の効果はさらに上がります。



機械換気がある場合

- ・窓がない施設でも、建物の施設管理者は、法令により感染症を防止するために合理的な換気量を保つような維持管理に努めるよう定められています。
注)ビル管理法により、不特定多数の方が利用する施設では、空気環境の調整により、一人当たり換気量(毎時約30m)を確保するよう努めなければなりません。
- ・したがって、地下や窓のない高所の施設であっても、換気設備(業務用エアコン等)によって換気されていることが通常のため、過剰に心配することはありません。
- ・しかし油断は禁物です。換気量をさらに増やすことは予防に有効です。冷暖房効率は悪くなりますが、窓やドアを開けたり、換気設備の外気取入れ量を増やしましょう。また、一部屋当たりの人数を減らしましょう。
- ・通常の家庭用エアコンは、空気を循環させるだけで、換気を行っていません。別途、換気を確認してください。また、一般的な空気清浄機は、通過する空気が換気量に比べて少ないことから、新型コロナウイルス対策への効果は不明です。

乗り物の場合

- ・乗用車やトラックなどのエアコンでは、「内気循環モード」ではなく**「外気モード」**にしましょう。
- ・電車やバス等の公共交通機関でも、**窓開け**に協力しましょう。



厚生労働省フリーダイヤル

厚労省 コロナ

検索

0120-565653



②「密集」しないよう、人と人の距離を取りましょう!

- ・他の人とは互いに手を伸ばして届かない十分な距離(**2メートル以上**)を取りましょう。



- ・スーパーのレジなどで列に並んでいるとき、前の人に近づきすぎないように注意しましょう。

- ・飲食店の座席では、**隣の人と一つ飛ばしに座る**と、距離を確保しやすいです。

また、真向かいに座らず、**互い違いに座る**のも有効です。

店舗の責任者は、椅子の数や配置を工夫して、十分な距離を保ちましょう。



- ・エレベーターでは、多くの人が密集しがちです。混みあっているときは、一本遅らせましょう。また、健康のためにも、階の上下には階段の利用に努めましょう。



- ・職場は、工夫してテレワークへ転換しましょう。導入に向けた支援策もあります。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html#hatarakukata



厚生労働省フリーダイヤル

厚労省 コロナ

検索

0120-565653



③「密接」した会話や発声は、避けましょう!

- ・密接した会話や発声は、ウイルスを含んだ飛沫を飛び散らせがちです。WHOは「5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛沫(約3,000個)が飛ぶ」と報告しています。



- ・対面での会議や面談が避けられない場合には、**十分な距離を保ち、マスクを着用**しましょう。



- ・エレベーターや電車の中などでは、距離が近づかざるを得ない場合があります。**会話や携帯電話による通話を慎み**ましょう。



- ・飲食店では、マスクを外す時間が長くなりがちです。外している間に飛沫が飛ぶことを抑えるには、例えば多人数での会食のように、大声にならざるを得ない催しは慎みましょう。家族以外の多人数での会食などは避けましょう。
注)「多人数」とは10人以上を想定していますが、なるべく少ない方がいいです。



- ・スポーツジムなど、多人数かつ室内で呼気が激しくなるような運動を行うことは避けましょう。



- ・喫煙も、近くにいる人との「密」に、こののほかに注意して下さい。



厚生労働省フリーダイヤル

厚労省 コロナ

検索

0120-565653



**新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた
工事及び業務の対応について**

**1 工事及び業務（以下「工事等」という。）で新型コロナウイルス感染症の感染等が確認された場合の
対応（以下「当対応」という。）（別紙2参照）**

（1）対象者

発注者：監督員、調査職員（以下「監督員等」という。）を対象とする。

受注者：現場で直接作業する作業従事者（現場代理人、主任技術者、監理技術者、担当技術者、作業員（下請含む）及び業務で配置される全ての配置技術者）（以下「作業従事者」という。）を対象とする。（社内の事務員、他現場の作業従事者は、接触者、濃厚接触者に該当する場合であっても当対応の対象外）

（2）用語の定義

現場等：作業場、事業所等をいう。工事においては工事現場、現場事務所及び休憩所、業務については執務を行っている事務所をいう。

陽性者：PCR検査により、新型コロナウイルス感染症の感染が確認された者

濃厚接触者：保健所が濃厚接触者に該当すると判断した者

接触者：PCR検査で陽性が判明した当該現場等作業従事者と、陽性が判明した日から遡って一週間以内に会話をした者

感染の疑いがある者：濃厚接触者、接触者及び咳や発熱等、新型コロナウイルス感染症が疑われる症状を呈している者

（3）感染の疑いがある者が確認された場合の対応

ア 感染の疑いがある者が受注者側の作業従事者に確認された場合

別紙2 「[1] 該当者が受注者側の作業従事者の場合」により対応。

イ 感染の疑いがある者が発注者側の監督員等を確認された場合

別紙2 「[2] 該当者が発注者側の監督員等の場合」により対応。

（4）注意事項

ア 陽性者について

陽性者は、保健所、医療機関等の指導に従う。

陽性者の現場作業への復帰時期についても医療機関等の判断に従う。

イ 濃厚接触者について

濃厚接触者は、保健所の指導に従う。

ただし、保健所の指導に関わらず、濃厚接触者は陰性であっても2週間の自宅待機とする。

ウ 接触者について

接触者に該当するか否かは受発注者がそれぞれ判断する。

パーティションの使用、マスク着用の有無を問わず、現場等において、陽性が判明した日から遡って一週間以内に陽性者と会話した者は接触者となる。

エ PCR検査で陰性が確認された場合の対応

受注者：濃厚接触者は陰性でも2週間の自宅待機とする。

接触者は、陰性が確認されれば現場作業に復帰可能。

発注者：濃厚接触者は陰性でも2週間の自宅待機とする。

接触者は陰性でも、保健所の判断に従い出勤の可否を判断する。

オ (3) アにおける、「現場等の安全が確保されたか」について

工事等の一時中止を解除するにあたり、保健所の指導に従い、機械設備、現場等の消毒作業を実施する。特に保健所から指導が無い場合、消毒完了をもって安全が確保されたとみなす。

カ (3) イにおける、「工事等の一時中止の要否を検討」について

現場等の作業継続が可能な場合、監督員等の追加・変更（通知）や段階確認の臨場を机上とする（指示）等、現場等が継続できるよう監督員体制等の確保に努める。

2 工事等の書類の提出及び打合せについて

(1) 工事等の書類の提出

ア 書面による指示、承諾、協議、提出、提示、報告及び通知は、やむを得ない場合及び契約関係書類を除き電子メールにより提出することとする。

※契約関係書類：契約書、現場代理人選任（変更）通知書、主任技術者等（変更）選任通知書、工程表、完成通知書、請求書、工事出来形部分等確認願

イ 押印書類は押印後にスキャンし、PDFに電子化したうえで電子メールにより送付する。

受理、承諾等の押印後は、押印後の書類を電子化し相手方に電子メールにより送付する。

ウ 受注者の環境、添付書類が多く電子化することが困難な書類など、電子メールによる送付が困難な場合は、事前に監督員等と協議を行うこと。

(2) 受発注者間の打合せ

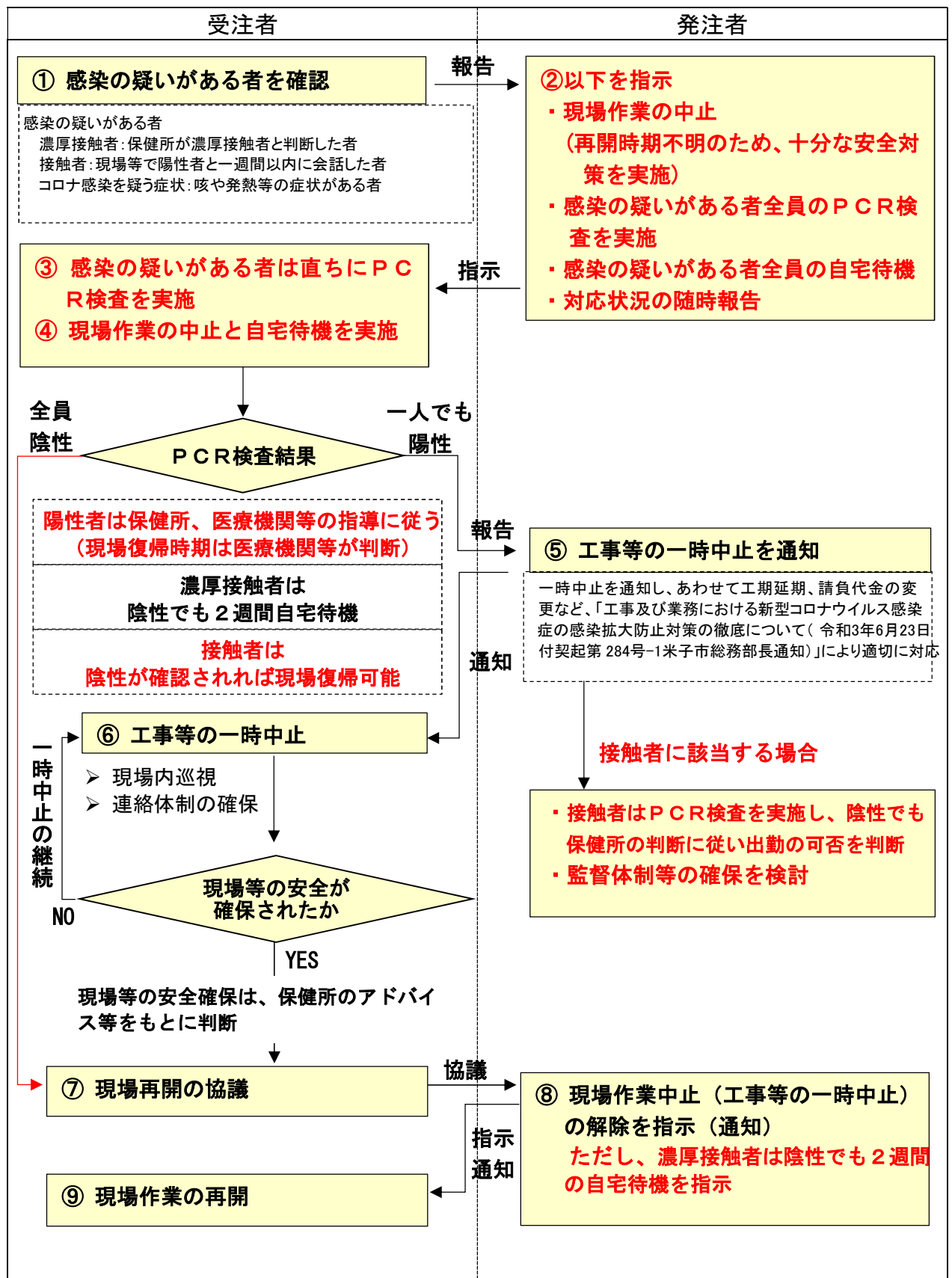
ア 打合せは、事前に電子メール等により打合せに必要な書類を提出したうえで、WEB会議システム、電話、情報共有システム等を活用し、やむを得ない場合、現場立会を除き、対面による打合せは行わないこととする。

イ やむを得ず対面による打合せを行う場合、現場立会を行う場合は、以下の点に留意すること。

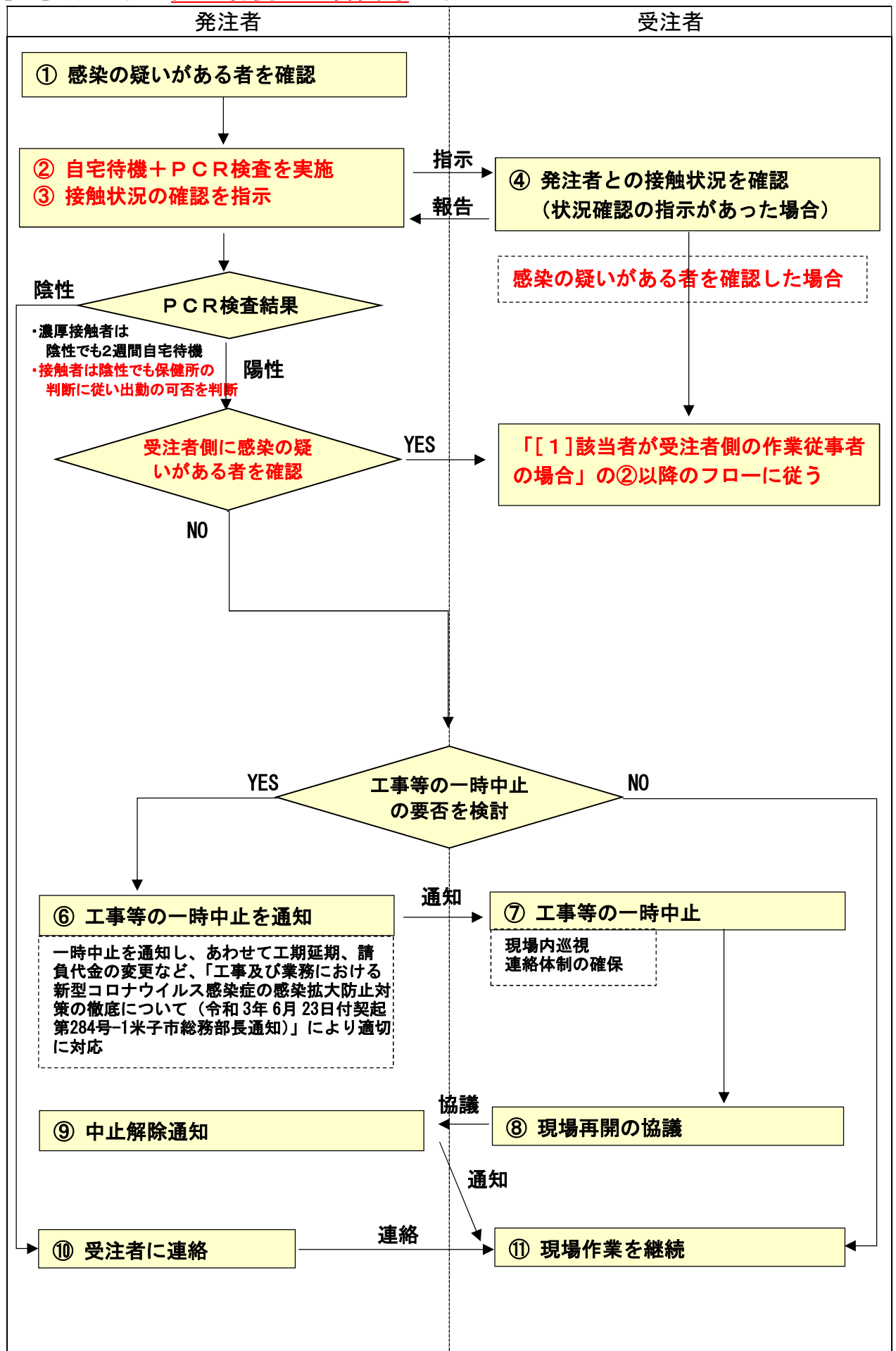
- ・①密閉空間、②密集場所、③密接場面の3つの条件を避けること。
- ・最小限の人数で実施するよう双方で働きかけを行う。
- ・マスク着用を推奨する等、感染予防を徹底する。
- ・打合せ等に出席した全員の氏名を受発注者双方で記録すること。

工事等で新型コロナウイルス感染症の感染等が確認された場合の対応

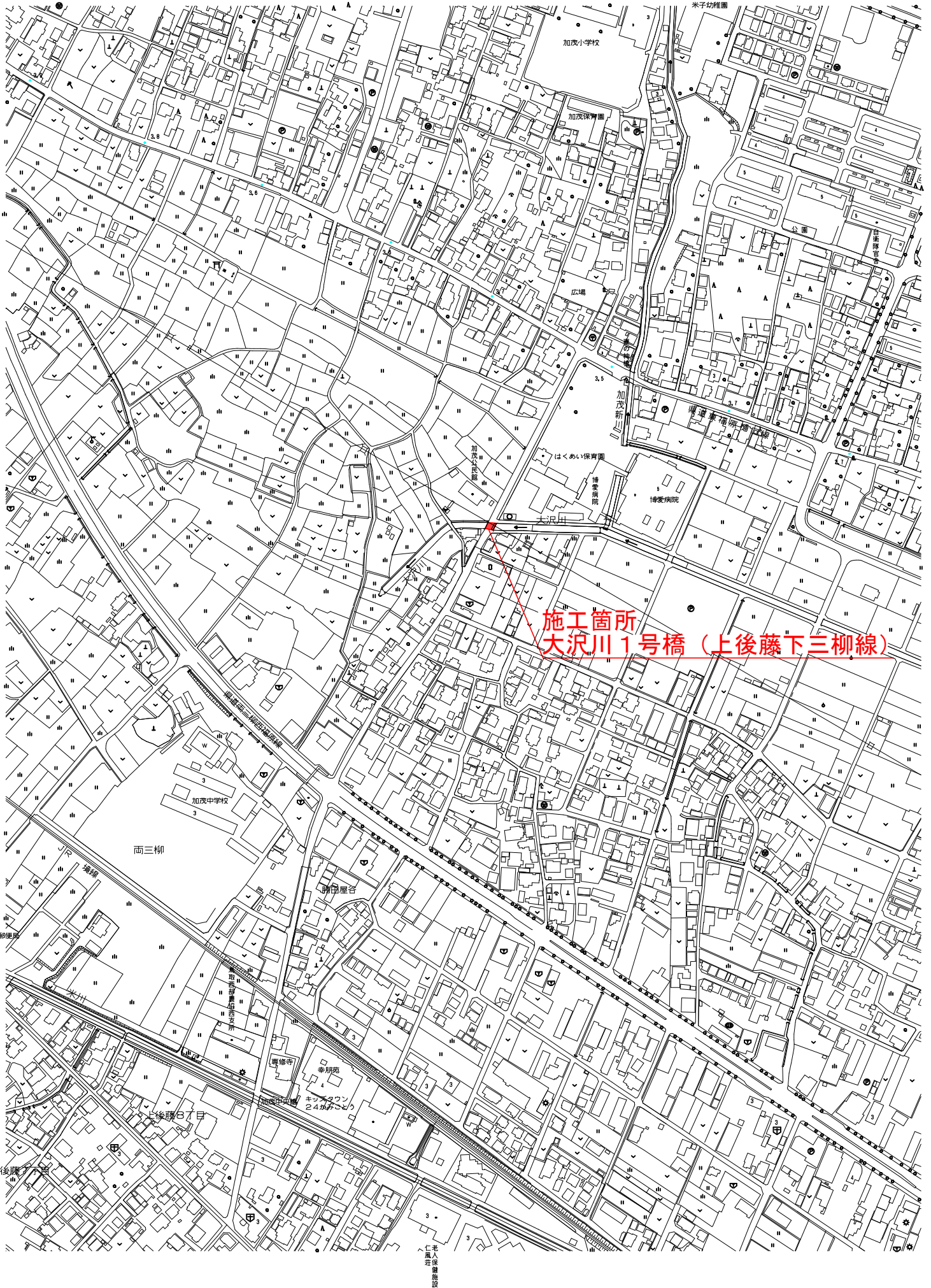
〔1〕 該当者が受注者側の作業従事者の場合



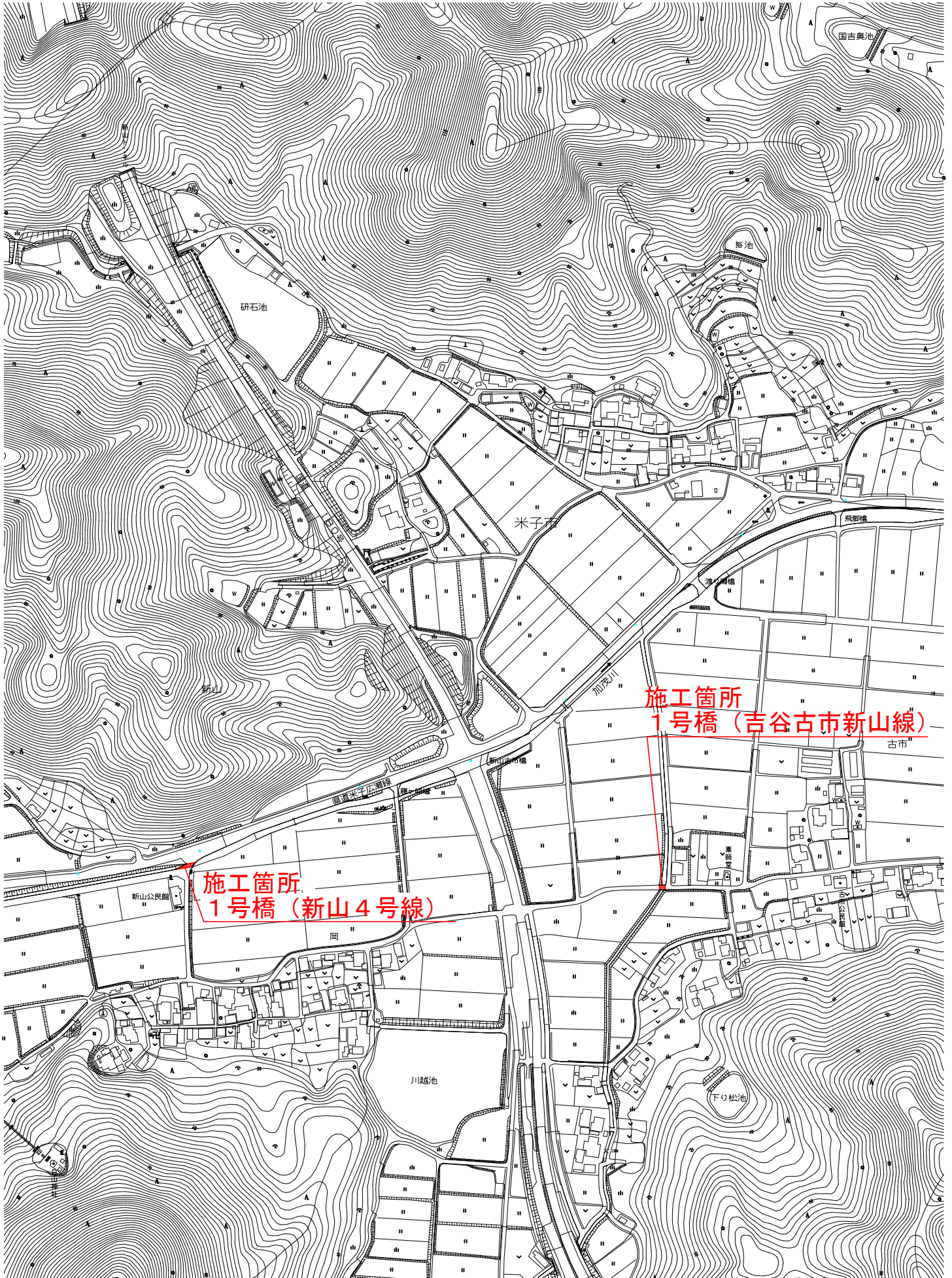
[2] 該当者が発注者側の監督員等の場合



位置図



位置図



工 事 数 量 総 括 表

工 事 名	市道上後藤下三柳線大沢川1号橋ほか2橋りょう補修工事					事業区分	橋りょう補修	
						工事区分	橋梁保全工事	
工事区分・工種・種別・細別		規 格	設計表示		数量 (前回)	数量 (今回)	数量 増減	摘要
			単位	数値				
本工事費								
橋梁保全工事（大沢川1号線）			式					
橋梁付属物工			式					
排水施設工			式					
	排水装置工	排水装置工 VP125、塩化ビニル版	箇所	1		1		
水切り設置工			式					
	水切り設置工	水切り設置工 EPDM系ゴム製水切り材	m	1		15		
伸縮部補修工			式					
	伸縮目地工	目地材充填 ゴム状弾性目地材	m	1		8		
橋梁用防護柵工			式					
	橋梁用防護柵	横断・転落防止柵 ビーム又はパネルの撤去	m	1		8		
		横断・転落防止柵 ビーム又はパネルの設置	m	1		8		
		転落防止柵 横桟ビーム 3mビーム	本	1		8		
		転落防止柵 横桟ビーム 1.53mビーム	本	1		4		
	穀運搬	現場発生品・支給品運搬 運搬距離5.0km以下	回	1		1		
	穀処分	スクラップ 鉄くず ヘビーH1	t	0.1		0.1		
ひび割れ補修工			式					
	低圧注入工法	ひび割れ補修工（低圧注入工法） 補修延べ延長1.3m	構造物	1		1		
断面修復工			式					
	左官工法	断面修復、鉄筋ケレン・防錆処理を含む 修復延べ体積0.3m3	構造物	1		1		
	穀運搬	Co構造物とりこわし 運搬距離3.3km以下	m 3	0.1		0.3		
	穀処分	Co穀処分費 無筋	t	1		1		
表面保護工			式					
	表面含侵工	表面含侵工 シラン系鉄筋腐食抑制剤	m2	1		54		
橋梁保全工事（市道新山4号線1号橋）			式					
橋梁付属物工			式					
水切り設置工			式					
	水切り設置工	水切り設置工 EPDM系ゴム製水切り材	m	1		13		
橋梁補修工			式					
ひび割れ補修工			式					
	低圧注入工法	ひび割れ補修工（低圧注入工法） 補修延べ延長1.2m	構造物	1		1		

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名	市道上後藤下三柳線大沢川1号橋ほか2橋りょう補修工事					事業区分	橋りょう補修	
						工事区分	橋梁保全工事	
工事区分・工種・種別・細別		規 格	設計表示		数量 (前回)	数量 (今回)	数量 増減	摘要
			単位	数値				
断面修復工			式					
	左官工法	断面修復、鉄筋ケレン・防錆処理を含む 修復延べ体積0.91m ³	構造物	1		1		
		鉄筋工 SD345 D22	t	0.01		0.02		
	殻運搬	殻運搬 運搬距離10.9km以下	m ³	1		1		
	殻処分	Co殻処分費 無筋	t	1		2		
表面保護工			式					
	表面含侵工	表面含侵工 シラン系鉄筋腐食抑制剤	m ²	1		40		
根固め工			式					
	袋詰玉石工	袋詰玉石 2t用	袋	1		3		
	モルタル充填	水中欠損部充填	m ³	1		1		
		型枠 鉄筋・無筋構造物	m ²	1		2		
橋梁保全工事（吉谷古市新山線1号橋）			式					
舗装工			式					
薄層舗装工			式					
	薄層舗装工	耐摩耗型複合薄層遮水性舗装 スーパーロメンパッチDN 相当	橋	1		1		
橋梁付属物工			式					
伸縮部補修工			式					
	伸縮目地工	目地材充填 20×40 ゴム状弾性目地材	m	1		9		
水切り設置工			式					
	水切り設置工	水切り設置工 EPDM系ゴム製水切り材	m	1		8		
橋梁補修工			式					
断面修復工			式					
	左官工法	断面修復、鉄筋ケレン・防錆処理を含む 修復延べ体積0.7m ³	構造物	1		1		
	鉄筋	鉄筋工	t	0.01		0.03		
	殻運搬	殻運搬 運搬距離14.4km以下	m ³	1		1		
	殻処分	Co殻処分費 無筋	t	1		2		
表面保護工								
	表面含侵工	表面含侵工 シラン系鉄筋腐食抑制剤	m ²	1		17		
床板下面増厚工								
	床板下面増厚工		橋	1		1		
仮設工			式			1		

1 仕様書

この契約において仕様書とは、特に定めのない限り「鳥取県土木工事共通仕様書」をいう。

2 下請関係の合理化について

- (1) この契約に係る工事の的確な施工を確保するため、下請契約を締結しようとする場合は、「建設産業における生産システム合理化指針」及び「鳥取県建設工事における下請契約等適正化指針」の趣旨に則り、優良な専門工事業者の選定、合理的な下請契約の締結、代金支払等の適正な履行、適正な施工体制の確立、下請における雇用管理等の指導等を行い本指針の遵守に努めること。
- (2) 中小建設業者に対する取引条件の適正化及び資金繰りの安定化等に資するため、元請業者は下請業者に対して、発注者から受取った前払金の下請業者への支払い、下請代金における現金比率の改善、手形期間の短縮等、下請代金支払の適正化について配慮すること。
- (3) 請負者は、下請契約を締結した場合は、施工体制台帳及び施工体系図を発注者に速やかに提出しなければならない。また、当該施工体制台帳及び施工体系図下に変更があったときは、変更が生じた日から 20 日以内（完成時においては、完成通知書の提出時）に変更後の書類を提出しなければならない。
- (4) 工事の一部を第三者に請け負わせる場合、又は工事に伴う交通誘導等の業務を第三者に委託する場合には、市内及び県内業者（以下「市内業者等」という。）との契約に努めること（優先順位は市内、県内の順位とする）。ただし、技術的に施工又は対応できる市内業者等がない工事等を請け負わせ又は業務を委託する場合、あるいは市内業者等で施工できても工程的に間に合わない等、特段の理由がある場合は、この限りでない。

3 建設資材等について

- (1) 工事に使用する資材については適法に生産されたものとする。
- (2) この契約に係る建設資材納入業者との契約に当たっては、当該業者の利益を不当に害しないよう公正な取引を確保するよう努めること。
- (3) 工事に使用する資材については、「県土整備部リサイクル製品使用基準」に基づき、リサイクル製品を積極的に活用すること。
- (4) リサイクル製品以外の工事に要する資材の使用順位は、次のとおりとする。
 - ① 市内産の資材がある場合は、市内産の資材の使用に努めること。ない場合は、県内産について同様の取り扱いとする。
 - ② 県外産の資材を使用する場合は、市内に本社又は営業所、支店等を有する販売業者（以下「市内販売業者」という。）から購入した資材の使用に努めること。市内販売業者がないときは、県内販売業者について同様の取り扱いとする。ただし、当該資材について市内販売業者又は県内販売業者がない場合は、この限りでない。

4 工事の安全確保について

この契約に係る工事の施工に当たっては、労働安全衛生法、労働安全衛生規則等を遵守し、労働災害の防止に努め、また工事中の交通事故防止について、特に留意すること。

5 建設機械の使用について

- (1) 標準操作方式建設機械を使用するよう努めること。
- (2) 施工現場及びその周辺の環境改善を図るため、低騒音型・低振動型の建設機械を使用するよう努めること。
- (3) 排ガス対策型建設機械の使用については、排ガス対策型建設機械の使用基準について（平成 17 年 11 月 15 日付第 200500080172 号県土整備部長通知）によること。

6 団体加入車の使用促進について

「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（以下「法」という。）の目的に鑑み、法第 12 条に規定する団体の設立状況を踏まえ、同団体への加入車の使用を促進するよう努めること。

7 ダンプトラック等による運搬について

- (1) 積載重量制限を超えて工事用資機材等を積み込まず、また積み込ませないようにすること。
- (2) さし柵装着車、不表示車等による違法運行は行わず、また行わせないようにすること。
- (3) 過積載車両、さし柵装着車、不表示車等から工事用資機材等の引渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること。
- (4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし柵装着車、不表示車等による違法運行を行っている場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- (5) 建設副産物の処理及び工事用資機材等の搬入・搬出等に当たって、下請事業者及び工事用資機材等納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- (6) 過積載を行っている資材納入業者から資材を購入しないこと。
- (7) 産業廃棄物の運搬車については、車体の外側に、環境省令で定めるところにより、産業廃棄物の収集又は運搬の用に供する運搬車である旨その他の事項を見やすいように表示し、かつ、当該運搬車に環境省令で定める書面を備え付けること。また、産業廃棄物処理業者に委託して産業廃棄物を運搬する場合、この表示、備え付けを行わせること。
- (8) 以上のことにつき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

8 不正軽油使用の禁止について

工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む）並びに建設機械等の燃料として、地方税法（昭和 25 年法律第 226 号）に違反する軽油等を使用しないこと。

9 建設業退職金共済制度への加入等

- (1) 建設業者は、建設業退職金共済制度（以下「建退共」という。）に加入すると共に、その建退共の対象となる労働者について証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に証紙を貼付すること。ただし、下請けを含むすべての労働者が、中小企業退職金共済制度、清酒製造業退職金共済制度、林業退職金制度のいずれかに既に加入済みで、建退共に加入することができないと認められる場合は、この限りでない。
- (2) 建設業者が下請契約を締結する際は、下請業者に対してこの制度の趣旨を説明し、原則として証紙を下請の延労働者数に応じて現物交付することにより、下請業者の建退共加入及び証紙の貼付を促進すること。なお、現物を交付することができない場合は、掛金相当額を下請代金中に算入することとし、契約書等に明記すること。
- (3) 請負業者は、工事現場に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。

10 建設業法の遵守について

- (1) 建設業法（昭和24年法律第100号）に違反する一括下請その他不適切な形態の下請契約を締結しないこと。
- (2) 建設業法第26条の規定により、請負業者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者または、専任の監理技術者については、適切な資格、技術力を有する者（工事現場に常駐して専らその職務に従事するもので、請負業者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者に限る。）を配置すること。
- (3) 請負業者が工事現場ごとに置かなければならない専任の監理技術者は、1級施工管理技士等の国家資格者等で監理技術者資格者証の交付を受けている者を配置すること。この場合において、発注者から請求があったときは監理技術者資格者証を提示すること。
- (4) 建設業法第40条の規定により、請負業者は建設現場ごとに「建設業の許可票」を掲示すること。
- (5) 上記のほか、建設業法等に抵触する行為は行わないこと。

11 労働基準法の遵守

この契約に係る工事の施工に当っては、労働基準法等の趣旨に則り法定労働時間週40時間を遵守すること。

12 建設業からの暴力団排除の徹底について

- (1) 工事の施工に際し、暴力団等の構成員又はこれに準ずる者から不当な要求や妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、監督員に速やかにその旨を報告するとともに、警察に届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。
- (2) この場合において、工程等を変更せざるを得なくなったときは、速やかに監督員に協議すること。

13 現場代理人、追加技術者、主任技術者及び監理技術者の雇用関係について

- (1) 工事現場に配置する技術者等（技術者等とは、現場代理人、追加技術者、主任技術者、監理技術者及び技能士をいう。）は、所属建設業者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものでなければならない。
- (2) 直接的雇用とは、技術者等とその所属建設業者との間に第三者の介入する余地のない雇用に関する一定の権利義務関係（賃金、労働時間、雇用及び権利構成）が存在することをいい、恒常的な雇用関係とは一定の期間（3か月以上）にわたり当該建設業者に勤務し、日々一定時間以上職務に従事することが担保されていることに加え、技術者等と所属建設業者が双方の持つ技術力を熟知し、建設業者が責任を持って技術者等を工事現場に配置できるとともに技術者等が建設業者が有する技術力を、十分かつ円滑に活用して工事の監理等の業務を行うことができることをいう。

14 労働者の福祉向上について

- (1) 建設労働者の適切な賃金水準の確保、社会保険等（雇用保険、健康保険及び厚生年金保険）への加入など、労働者の福祉向上に努めること。なお、健康保険等の適用を受けない建設労働者に対しても、国民健康保険等に参加するよう指導に努めること。
- (2) 下請契約の締結に際しては、下請業者へ法定福利費を内訳明示した見積書（標準見積書という。）の提示を求め、提示された場合にはこれを尊重するとともに、社会保険等の法定福利費などの必要経費を適切に考慮するように努めること。

15 産業廃棄物の処理に係る税について

この契約に係る工事で発生する建設廃棄物のうち、鳥取県、岡山県、広島県等の産業廃棄物の処理に係る税条例を施行している自治体内に搬入する建設廃棄物については、産業廃棄物の処理に係る税が課税される場合があるので適切に処理すること。

16 コンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比

コンクリート構造物の耐久性を向上させるため、一般環境条件の場合のコンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比は、鉄筋コンクリートについては5.5パーセント以下、無筋コンクリートについては6.0パーセント以下とする。

17 消費税及び地方消費税の適正転嫁等について

下請契約及び資材購入等において、消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法（平成25年法律第41号）で禁止された転嫁拒否等行為を行わないなど、適切な対応を行うこと。

18 その他

- (1) 工事施工管理資料等については簡略化名称を使用できることとする。ただし、略称については、発注者と協議の上重複しないよう注意し、また、わかりやすく簡単なものとする。
- (2) コンクリート構造物については、「コンクリート構造物ひびわれ抑制対策指針」に基づき施工するものとする。
- (3) 建設副産物のリサイクル、熱帯木材型枠の削減等、環境対策について積極的に取り組むこと。
- (4) 労務費については、法定労働時間週40時間を考慮したものとしている。
- (5) 請負業者が本工事の一部について下請契約を締結する場合には、請負業者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）においても同様の義務を負う旨を定めなければならない。

- (6) ほ装単独工事（アスファルト）においては、表層工、基層工及び上層路盤工を自社施工しなければならない。ただし、表層工、基層工及び上層路盤工であっても特殊工法部分についてはこの限りでない。
- (7) 工事及び業務における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の徹底 について
(令和3年6月23日付契起第284号ー1米子市総務部長通知) に基づき、追加で費用を要する新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を実施する場合には、実施内容について発注者と協議を行い、必要と認められる対策については、変更施工計画書（又は変更業務計画書）を提出すること。なお必要と認められる対策については、設計変更の対象とする。

現 場 説 明 書		令和3年4月1日改正 特記事項1
仕様書	本工事の施工に当たっては、契約日現在の次に掲げる仕様書等によること。 ・ <u>鳥取県土木工事共通仕様書</u> ・ _____ ・ _____	
工程	① （他工事等との調整） ② （部分完成、着工保留） ③ （施工時間） ④ （余裕期間設定工事） ⑤ （鋼材の調達の遅れによる工期の延長） ⑥ （週休2日モデル工事）	_____については、_____と関連するので相互の連絡を密にすること。 _____については、_____（ すること ・ しないこと ）。 本工事 _____の施工時間は、<u>8：00 ～17：00</u> とする。 本工事は、米子市余裕期間設定工事に係る実施要領（令和3年4月1日施行）の対象工事であり、工事開始日、前払金の請求、技術者の配置及びその他の取扱いについては、同要領の規定による。 工期については、調達公告のとおりとする。 この工事の工期には、鋼材調達期間として、_____か月を見込んでいるが、請負者の責に帰することができない事由により鋼材の調達が遅れ、工期内に工事を完成することができない場合は、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。 本工事は、米子市「週休2日工事モデル工事」試行実施要領（土木工事）（令和3年4月1日施行）の対象工事である。モデル工事を選択する場合は、工事着手日までに発注者に協議をすること。選択後の取扱いについては、同要領の規定による。
用地関係	① （用地・物件等未処理）	本工事区間の _____ には _____ があるので、監督員と打合わせのうえ施工を行うこと。 なお、 _____ 頃 _____ の予定である。
支障物件	① （埋設物等の事前調査） ② （支障物件） ③ （立木の置き場所）	工事にかかる地下埋設物等の事前調査については、[<u>未調査・調査済み</u>]である。 _____の施工に当って、_____が支障となっているが、_____までに移設が完了する見込みである。 予定どおり処理できなかった場合は別途協議する。 工事用地内の立木は伐採し、_____に置くこと。
対公害	① （騒音振動対策）	「建設工事にともなう騒音振動対策技術指針」を順守すること。 本工事の施工に当っては、排出ガス対策型建設機械を使用すること。
安全対策	① （交通安全施設等）	一般交通等に支障を及ぼさないよう十分に注意して施工すること。 なお、交通整理の必要日数<u>5</u>日を見込んでいる。配置人員として、交通誘導員Aを合計 _____ 名（交代要員[有・無]）、交通誘導員Bを合計 <u>15</u> 名（交代要員[有・無]）を見込んでいるが、警察等との協議により変更が生じた場合は別途協議すること。 警備業法に規定する警備員を配置する場合においては、交通誘導員A、交通誘導員Bの定義は以下のとおりとする。 交通誘導員Aとは、警備業法第2条第4号に規定する警備員であり、警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務に従事する者で、交通誘導警備業務に係る1級検定合格警備員又は2級検定合格警備員をいう。また、交通誘導員Bとは、警備業法第2条第3項に規定する警備業者の警備員で交通誘導員A以外の交通の誘導に従事する者をいう。 なお、自社の従業員で交通整理を行う場合は、警備業法第14条で規定する以外の者とし、安全教育、安全訓練等を十分行うこと。この場合は交通誘導員Bを配置しているとみなす。
排水処理濁水	① （濁水処理）	工事で発生する濁水に対しては、濁水処理を行うものとし、その工法については、設計図書によるものとする。 なお、これにより難しい場合は別途協議すること。

現場説明書

特記事項2

建設副産物の処理	【建設発生土（処理）】 ① （他工事等流用） ② （建設技術センター） ③ （民間残土受入地）	建設発生土は_____市・町・村_____地内の_____ 工事現場に運搬（片道運搬距離_____km）するものとする。 建設発生土は_____市・町・村_____地内のセンター事業所に運搬（片道運搬距離_____km）するものとする。なお、処理費として、1 m³当たり円をセンターに支払うこと。 建設発生土は、<u>米子</u>市・<u>野</u>村_____地内の_____に 運搬（片道運搬距離_____km）するものとする。なお、処理費として、1 m³当たり__円を<u>受入地</u>に支払うこと。
	【コンクリート塊・アスファルト塊・建設発生木材（処理）】 ④ （分別解体等） ⑤ （他工事等流用） ⑥ （再資源化施設への搬出） (施設の名称・受入れ費用) (受入れ時間帯) (受入れ条件) ⑦ （木材市場等へ売却） ⑧ （最終処理等） ⑨ （産業廃棄物の処理に係る税）	コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材は、現場内において分別解体するものとする。その方法は、別表のとおりとする。 なお、その費用を下記のとおり見込んでいる。 コンクリート塊 1 m² 当り_____円 アスファルト塊 1 m² 当り_____円 建設発生木材 1 m³ 当り_____円 [Co 雑割材・_____]は、_____市・町・村_____地内_____工事現場に運搬（片道運搬距離_____km）するものとする。 コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材等は、再生資源として、下記の再資源化施設への搬出を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが搬出先を変更する場合は理由を付して協議を行うこと。 再資源化施設業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとにマニフェストを発行するものとする。 なお、再資源化施設へ搬出が完了したときは、書面により報告すること。 コンクリート塊 <u>米子</u>市・<u>野</u>村<u>夜見町</u>地内の(有)大成商事 (運搬距離<u>2</u> km)、費用 1 t 当り <u>1,000</u> 円 コンクリート塊 <u>米子</u>市・<u>野</u>村<u>夜見町</u>地内の(有)大成商事 (運搬距離<u>10.8</u> km)、費用 1 t 当り <u>1,000</u> 円 コンクリート塊 <u>米子</u>市・<u>野</u>村<u>夜見町</u>地内の(有)大成商事 (運搬距離<u>11.1</u> km)、費用 1 t 当り <u>1,000</u> 円 アスファルト塊 _____市・<u>野</u>村_____地内の_____ (運搬距離_____km)、費用 1 t 当り_____円 建設発生木材 _____市・町・村_____地内の_____ (運搬距離_____km)、費用 1 t 当り_____円 8時～17時（平日） ア 路盤材、土砂、金属片等が、混入していないこと。 イ コンクリート塊、アスファルト塊の径は500mm以下であること。 ウ 建設発生木材に関しては、泥等の付着がなく、径_____cm 以下、長さ_____m以下であること。 エ 2次公害発生の恐れがある物質（廃油等）を含まないこと。 建設発生木材は_____市・町・村_____地内の_____への搬出（片道運搬距離_____km）を想定し、_____円を見込んでいる。これは、他の木材市場等への売却を妨げるものではないが、売却先を変更する場合は理由を付して協議すること。 _____については、_____市・町・村 _____地内の産業廃棄物処理場への搬出（片道運搬距離_____km）を想定し、その費用として1t 当たり_____円を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが、搬出先を変更する場合は協議を行うこと。 産業廃棄物処理業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとにマニフェストを発行するものとする。 産業廃棄物の処理に係る税に相当する額を_____円見込んでいる。

現場説明書

特記事項3

建設副産物の使用	① (建設発生土の使用) ② (再生資材の使用)	_____ 工事から〔当該工事運搬・相手方運搬〕の建設発生土を受入れ、使用箇所： _____ に使用する。 1) C 〇 雑資材は、 _____ 工事から運搬し、 使用箇所： _____ に使用する。 2) アスファルト・コンクリート切削材は、 _____ 工事から運搬し、 使用箇所： _____ に使用する。 3) 再生クラッシャーラン〔規格： _____〕は、 使用箇所： _____ 路盤、基礎砕石 _____ に使用する。 _____ 再生コンクリート砂〔規格：RS _____〕は、 使用箇所： _____ に使用する。 4) 再生加熱アスファルト混合物〔規格：密粒度13mm〕は、 使用箇所： _____ 表層 _____ に使用する。 5) その他再生資材〔資材名： _____〕〔規格： _____〕は、 使用箇所： _____ に使用する。												
工事用道路														
仮設備														
その他	① (労災補償に必要な保険の付保) ② (現場環境改善)	本工事において、請負者は労災補償に必要な任意の保険契約を締結すること。なお、この労災補償に必要な保険契約の保険料を予定価格に反映している。 本工事は、現場環境改善（率計上分）実施対象工事と〔する・しない〕。 下表の内容のうち原則として各費目（仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携）ごとに1実施内容ずつ（いずれか1項目のみ2実施内容）の合計5つの実施内容を実施すること。港湾及び漁港事業は、項目に防災・危機管理関係を含めることができる。 実施に当たっては、施工計画書に実施内容及び実施時期を記載し、実施後に監督員に写真等を提出すること。 地域の状況・工事内容により組み合わせ、費目数及び実施内容を変更する場合は、原則として設計変更は行わないが、その内容（目的に資するものであること）について監督員の確認を受けること。 1内容も実施困難な場合は、監督員と協議の上、設計変更により率計上は行わない。 <table><tr><th>計上費目</th><th>実施内容</th></tr><tr><td>仮設備関係</td><td>1. 用水・電力等の供給設備， 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設， 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実， 6. 環境負荷の低減</td></tr><tr><td>営繕関係</td><td>1. 現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 2. 労働者宿舎の快適化 3. デザインボックス（交通誘警備員待機室） 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等</td></tr><tr><td>安全関係</td><td>1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） 2. 盗難防止対策（警報機等） 3. 避暑（熱中症予防）・防寒対策</td></tr><tr><td>地域連携</td><td>1. 完成予想図， 2. 工法説明図， 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板（各工事PR看板含む） 5. 見学会等の開催（イベント等の実施含む） 6. 見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等（地域行事等の経費を含む） 9. 社会貢献</td></tr><tr><td>防災・危機管理関係（港湾・漁港事業）</td><td>1. 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）</td></tr></table>	計上費目	実施内容	仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備， 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設， 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実， 6. 環境負荷の低減	営繕関係	1. 現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 2. 労働者宿舎の快適化 3. デザインボックス（交通誘警備員待機室） 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等	安全関係	1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） 2. 盗難防止対策（警報機等） 3. 避暑（熱中症予防）・防寒対策	地域連携	1. 完成予想図， 2. 工法説明図， 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板（各工事PR看板含む） 5. 見学会等の開催（イベント等の実施含む） 6. 見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等（地域行事等の経費を含む） 9. 社会貢献	防災・危機管理関係（港湾・漁港事業）	1. 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）
計上費目	実施内容													
仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備， 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設， 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実， 6. 環境負荷の低減													
営繕関係	1. 現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 2. 労働者宿舎の快適化 3. デザインボックス（交通誘警備員待機室） 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等													
安全関係	1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） 2. 盗難防止対策（警報機等） 3. 避暑（熱中症予防）・防寒対策													
地域連携	1. 完成予想図， 2. 工法説明図， 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板（各工事PR看板含む） 5. 見学会等の開催（イベント等の実施含む） 6. 見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等（地域行事等の経費を含む） 9. 社会貢献													
防災・危機管理関係（港湾・漁港事業）	1. 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）													

その他	③（経費対象外について）	転落防止柵の撤去に伴うスクラップ費用については、共通仮設費、現場管理費、一般管理費等の対象額に含めない。
-----	--------------	--

※明示する項目を_____部分に記入又は追記し、不要部分は——で削除して使用すること。

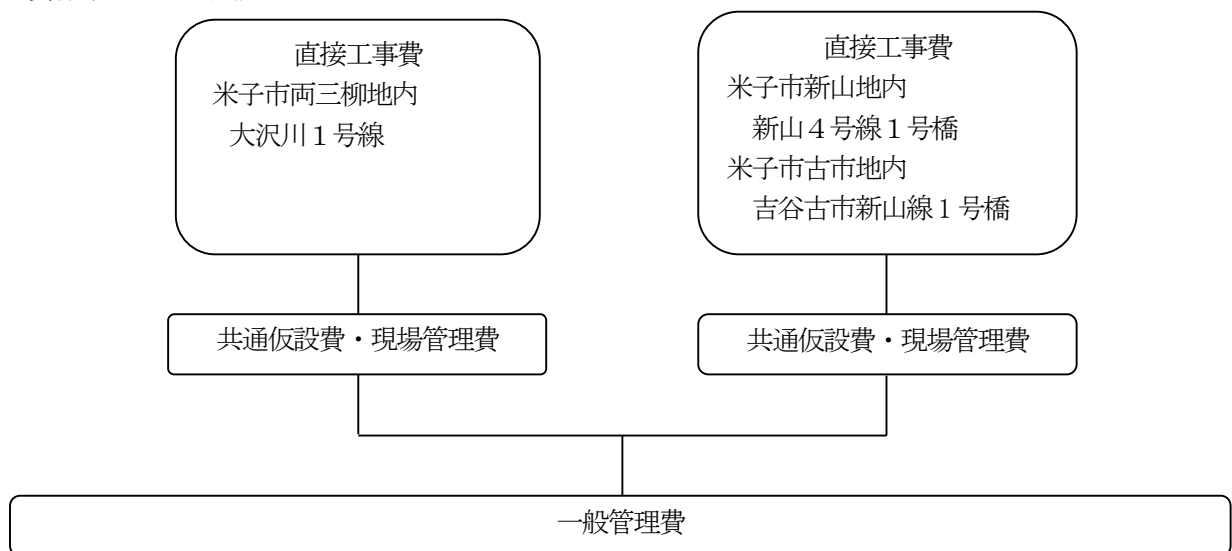
(別紙)

施工箇所が点在する工事の間接工事費の積算方法 現場説明書

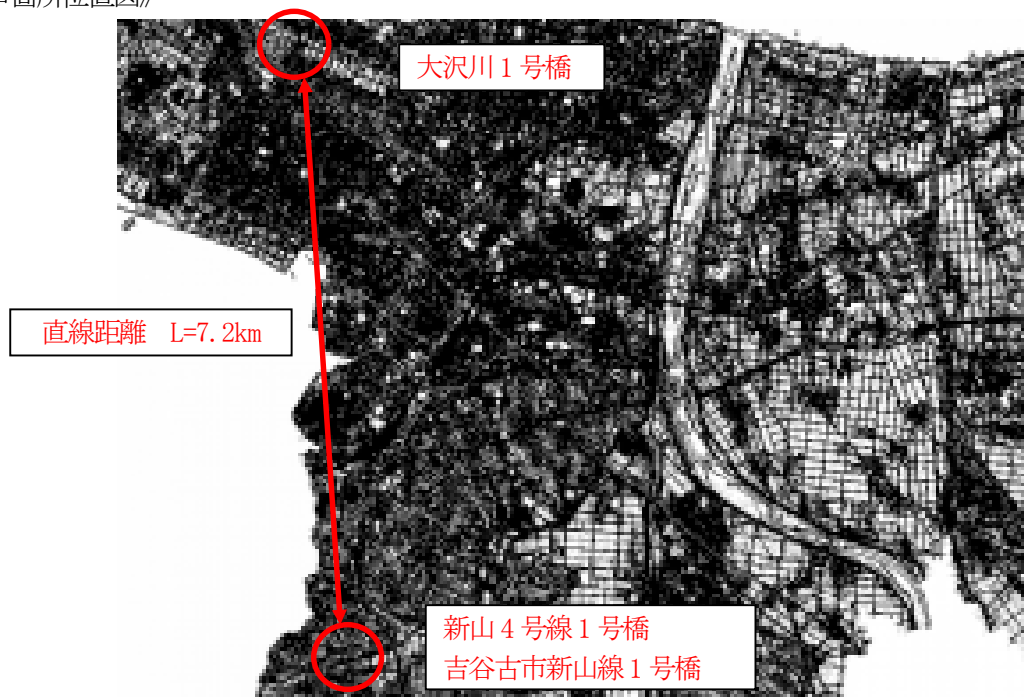
本工事における一般管理費は、施工箇所毎に分けない積算と同様とするが、共通仮設費及び現場管理費の金額は、工事箇所毎に算出した共通仮設費及び現場管理費を合計した金額としている。なお、共通仮設費率、現場環境改善費率、及び現場管理費率の補正については、工事箇所毎に設定している。一般管理費算出時の共通仮設費率、及び現場管理費率にかかる施工地域を考慮した補正は、新山4号線1号橋ほか1の設計書で設定した係数とする。

工事箇所名	施工箇所名
米子市両三柳地内	大沢川1号線
米子市新山地内	新山4号線1号橋
米子市古市地内	吉谷古市新山線1号橋

《工事費体系イメージ図》



《工事箇所位置図》



建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等(土木工事等)

分別解体等の計画等

工作物の構造 (解体工事のみ)		☐ 鉄筋コンクリート造 ☐ その他()		
工事の種類		☐ 新築工事 ☒ 維持・修繕工事 ☐ 解体工事 ☐ 電気 ☐ 水道 ☐ ガス ☐ 下水道 ☐ 鉄道 ☐ 電話 ☐ その他()		
使用する特定建設資材の種類 (新築・維持・修繕工事のみ)		☒ コンクリート ☒ コンクリート及び鉄から成る建設資材 ☐ アスファルト・コンクリート ☐ 木材		
工作物に関する調査の結果	工作物の状況	築年数 _____ 年 その他()		
	周辺状況	周辺にある施設 ☒ 住宅 ☐ 商業施設 ☐ 学校 ☒ 病院 ☐ その他() 敷地境界との最短距離 約 <u>2</u> m その他()		
	工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容	工作物に関する調査の結果	工事着手前に実施する措置の内容	
工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容	作業場所	作業場所 ☒ 十分 ☐ 不十分 その他(河川、道路内での作業)		
	搬出経路	障害物 ☐ 有() ☒ 無 前面道路の幅員 約 <u>4~6</u> m 通学路 ☒ 有 ☐ 無 その他()		
	特定建設資材への付着物(解体・維持・修繕工事のみ)	☐ 有() ☒ 無		
	その他		周辺住民への周知	
工程ごとの作業内容及び解体方法	工程	作業内容	分別解体等の方法 (解体工事のみ)	
	①仮設	仮設工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
	②土工	土工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
	③基礎	基礎工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
	④本体構造	本体構造の工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☒ 手作業・機械作業の併用	
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☒ 手作業・機械作業の併用	
	⑥その他 ()	その他の工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
工事の工程の順序 (解体工事のみ)		☐ 上の工程における⑤→④→③の順序 ☐ その他() その他の場合の理由()		
工作物に用いられた建設資材の量 の見込み(解体工事のみ)		トン		
廃棄物発生見込量	特定建設資材廃棄物の種類ごとの量の見込み(全工事)並びに特定建設資材が使用される工作物の部分(新築・維持・修繕工事のみ)及び特定建設資材廃棄物の発生が見込まれる工作物の部分(維持・修繕・解体工事のみ)	種類	量の見込み	使用する部分又は発生が見込まれる部分(注)
		☒ コンクリート塊	5トン	☐ ① ☐ ② ☐ ③ ☒ ④ ☒ ⑤ ☐ ⑥
		☐ アスファルト・コンクリート塊	トン	☐ ① ☐ ② ☐ ③ ☐ ④ ☐ ⑤ ☐ ⑥
		☐ 建設発生木材	トン	☐ ① ☐ ② ☐ ③ ☐ ④ ☐ ⑤ ☐ ⑥
(注) ①仮設 ②土工 ③基礎 ④本体構造 ⑤本体付属品 ⑥その他				
備考				

□欄には、該当箇所に「レ」を付すこと。

総括情報表

事務所 設計書名 変更回数 事業名 適用単価区分 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系 ファイル名	54 米子市 実施設計書 当初 03-*****-00003-40 0 1 実施単価 30 米子市 0-03. 10. 10(0) 1 公共				
	当 世 代	前 世 代		当 世 代	前 世 代
工種 現場環境改善費 施工地域 契約保証区分 豪雪割増 工期算定区分 週休二日補正係数	38 橋梁保全工事 02 率計上する（市街地） 11 市街地(DID補正) 01 金銭保証（0. 0 4 %） 01 豪雪割増あり 02 算出しない 01 週休二日補正なし				

本工事費 内訳書

頁0-0002

費目・工種・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費										X1000	
橋梁保全工事 (大沢川1号橋)										Y1G03	(レベル1)
					一式						
橋梁付属物工										Y1G0321	(レベル2)
					一式						
排水施設工										Y1G032103	(レベル3)
					一式						
排水装置工										Y4999	(レベル4)
排水装置工 VP125, 塩化ビニル板 コンクリートアンカー										V0001	0
		1			箇所					単第0-0001 表 031010	
水切り設置工										Y3999	(レベル3)
水切り設置工 E P D M系ゴム製水切り材										V0002	0
見積り 伸縮部補修工		15			m					単第0-0004 表 031010	
										Y3999	(レベル3)

本工事費 内訳書

頁0-0003

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
伸縮目地工						Y4999 (レベル4)
目地材充填工 上幅25mm×下幅4mm×深さ20mm						V0003 0
	8	m				単第0-0005 表 031010
橋梁用防護柵工						Y1G032105 (レベル3)
			一式			
橋梁用防護柵						Y1G03210501 (レベル4)
			m			
横断・転落防止柵 ビーム又はパネルの撤去						SS000155 0 A=1, B=1, C=1
	8	m				単第0-0006 表 031010
横断・転落防止柵 ビーム又はパネルの設置 支柱間隔3m						SS000149 0 A=1, B=1, C=1
	8	m				単第0-0007 表 031010
転落防止柵 横桟ビーム 3 m ビーム 見積り						F0000000008 0
	8	本				031010
転落防止柵 横桟ビーム 1.53m ビーム 見積り						F0000000013 0
	4	本				031010
殻運搬						Y4999 (レベル4)

本工事費 内訳書

頁0-0004

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
現場発生品・支給品運搬 クレーン装置付2t級2t吊 片道運搬距離5.0km以下(2.0km超)	1	回			SPK21040409 0 A=1, B=2, C=1 単第0-0008 表 031010
殻処分					Y4999 (レベル4)
スクラップ 鉄くず へビー H 1	0.1	t			TTU0052 0 031010 8
橋梁補修工		一式			Y1G0324 (レベル2)
ひび割れ補修工		一式			Y1G032404 (レベル3)
低圧注入工法		構造物			Y1G03240402 (レベル4)
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 補修延べ延長25m未満の場合	1	構造物			S1020035 0 A=3, B=0.02, C=4, D=0.31, E=5, F=6 単第0-0009 表 031010
断面修復工		一式			Y1G032405 (レベル3)
左官工法		構造物			Y1G03240501 (レベル4)

本工事費 内訳書

頁0-0005

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.3m3	1	構造物			S1020041 0 A=0.3, B=6, C=0.3 単第0-0010 表 031010
殻運搬		m3			Y1G03040205 (レベル4)
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離3.3km以下(1.6km超)	0.3	m3			SPK21040138 0 A=1, B=1, C=2, D=14, E=1 単第0-0011 表 031010
殻処分		m3			Y1G03040206 (レベル4)
投棄料		一式			#0041 C=投棄料
Co殻処分費 無筋	1	t			W0001
表面保護工					Y3999 (レベル3)
表面含浸工					Y4999 (レベル4)
表面含浸工 シラン系鉄筋腐食抑制材	54	m ²			V0010 0 単第0-0012 表 031010

本工事費 内訳書

頁0-0006

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
＊＊直接工事費＊＊						
現場環境改善費						Z0012
共通仮設費						
＊＊共通仮設費計＊＊						
＊＊純工事費＊＊						
現場管理費						
＊＊工事原価＊＊						
一般管理費率分						
契約保証費						

本工事費 内訳書

頁0-0007

費目・工種・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
一般管理費計											
工事価格											
消費税相 当額											
工事費計											

排水装置工
VP125, 塩化ビニル板

V0001
コンクリートアンカー

施 工 単 価 表

単第0-0001 表
1
箇所 当り
頁0-0008

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
VP125	0.4	m			F0000000001 積算物価21.10月P688
塩化ビニル板 8×100×2,000 グレー 押出板 相当	0.04	m ²			F0000000002 積算物価21.10月P521
コンクリートアンカーボルト設置 あと施工アンカー(各種)	4	本			SPK21040406 単第0-0002 表
橋梁_排水管設置 VP管	0.4	m			SPK21040407 単第0-0003 表
*** 単位当たり ***	1	箇所			

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
特殊作業員	47.90%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	27.88%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	16.01%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
あと施工アンカー 金属拡張アンカー スリーブ打込み式 M8×65 積算物価21.10月 P 64	6.26%		あと施工アンカー 芯棒打込み式 M12		F000000009 TTPT00217
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		EP001
A=4 あと施工アンカー(各種)			C=9 【F】あと施工アンカー(本)		

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
特殊作業員	52.17%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	30.38%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	17.45%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 VP管					

水切り設置工
E P D M系ゴム製水切り材

V0002

施 工 単 価 表

単第0-0004 表

頁0-0011

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.2	人			RTPC00009
特殊作業員	0.2	人			RTPC00001
普通作業員	0.2	人			RTPC00002
E P D M系ゴム製水切り材 ウォーターカッター相当	10	m			F0000000010 見積り
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1	人			RTPC00009
防水工	2	人			RTA0052
普通作業員	1	人			RTPC00002
ゴム状弾性目地材 TS目地ガードN 充填用相当 25×4×20	9.8	kg			F0000000011 見積り9
マスキングテープ 21mm	48	m			F0000000012 見積り9
雑消耗品	10	%			#09
*** 合計 ***	20	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

横断・転落防止柵 ビーム又はパネルの撤去

SS000155

施 工 単 価 表

単第0-0006 表

頁0-0013

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
横断・転落防止柵部材撤去 ビーム・パネル 部材撤去	1.000	m			TSA55
諸雑費	1	一式			#91
*** 単位当たり ***	1	m			
A=1 - C=1 -			B=1 -		

横断・転落防止柵 ビーム又はパネルの設置
支柱間隔3m

SS000149

施 工 単 価 表

単第0-0007 表

頁0-0014

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
横断・転落防止柵部材設置 ビーム・パネル 部材設置	1.000	m			TSA26
諸雑費	1	一式			#91
*** 単位当たり ***	1	m			
A=1 - C=1 -			B=1 -		

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
トラック クレーン装置付 ベーストラック2t級吊能力2.0t	12.83%		トラック クレーン装置付 ベーストラック2t級吊能力2.0t		MTPC00020 MTPT00020
特殊運転手	41.61%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	40.64%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 小型ローリー (パトロール給油)	4.92%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 クレーン装置付2t級2t吊 C=1 1回当り平均積載質量0.1t以下			B=2 片道運搬距離5.0km以下(2.0km超)		

ひび割れ補修工(低圧注入工法)
補修延べ延長25m未満の場合

S1020035

施 工 単 価 表

単第0-0009 表

1 構造物 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.500	人			RTPC00009
特殊作業員	2.400	人			RTPC00001
普通作業員	1.800	人			RTPC00002
エポキシ樹脂系3種	0.020	kg			F0000000003
シーラ材	0.425	kg			F0000000004
注入器具	6.000	個			F0000000005
諸雑費	6	%			見積り #09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=3 【F】 注入材(kg) C=4 【F】 シール材(kg) E=5 【F】 低圧注入器具(個)			B=0.02 注入材の必要数量(kg/構造物) D=0.31 シール材の設計数量(kg/構造物) F=6 低圧注入器具の必要数量(個/構造物)		
シーラ材の材料使用数量 = 設計数量(kg) * (1 + ロス率) = 0.310000000 * (1 + 0.37) = 0.425 (kg) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					

施 工 単 価 表

単第0-0010 表

1 構造物 当り

断面修復工(左官工法)
(鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)

S1020041
修復延べ体積0.3m3

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	6.900	人			RTPC00009
特殊作業員	11.400	人			RTPC00001
普通作業員	7.500	人			RTPC00002
ポリマーセメントモルタル	0.354	m3			F0000000006
諸雑費	11	%			県単価 #09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=0.3 1構造物当り修復延べ体積(m3/構造物) C=0.3 断面修復材の設計数量(m3/構造物)			B=6	【F】断面修復材(m3)	
土木一般世話役 = $V / 0.1 * D2 = 0.30000000 / 0.1 * 2.3 = 6.900$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め 特殊作業員 = $V / 0.1 * D2 = 0.300000000 / 0.1 * 3.8 = 11.400$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め 普通作業員 = $V / 0.1 * D2 = 0.300000000 / 0.1 * 2.5 = 7.500$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					
断面修復材の使用数量 = 設計数量(m3) * (1 + ロス率) = $0.300000000 * (1 + 0.18) = 0.354$ (m3) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	43.38%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
一般運転手	41.88%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 小型ローリー (パトロール給油)	14.74%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=14 運搬距離3.3km以下(1.6km超)		

表面含浸工
シラン系鉄筋腐食抑制材

V0010

施 工 単 価 表

単第0-0012 表

頁0-0019

100 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
下地処理	100	m ²			T0002 土木コスト情報21. 10月P442 9
含浸材塗布	100	m ²			T0003 土木コスト情報21. 10月P443 9
シラン系鉄筋腐食抑制材 プロテクトシルCIT相当	66	L			F0000000007 建設物価21. 10月P195 9
雑材料	5	%			#09
*** 合計 ***	100	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

総括情報表

頁0-0001

事務所 設計書名 変更回数 事業名 適用単価区分 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系 ファイル名	54 米子市 実施設計書 当初 03-*****-00003-40 0 1 実施単価 30 米子市 0-03. 10. 10(0) 1 公共				
	当 世 代	前 世 代		当 世 代	前 世 代
工種 現場環境改善費 施工地域 契約保証区分 豪雪割増 工期算定区分 週休二日補正係数	38 橋梁保全工事 01 率計上する（地方部） 19 補正なし 01 金銭保証（0. 0 4 %） 01 豪雪割増あり 02 算出しない 01 週休二日補正なし				

本工事費 内訳書

頁0-0002

費目・工種・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費										X1000	
橋梁保全工事 (新山4号線1号橋)										Y1G03 (レベル1)	
					一式						
橋梁附属物工										Y1G0321 (レベル2)	
					一式						
水切り設置工										Y3999 (レベル3)	
水切り設置工										Y4999 (レベル4)	
水切り設置工 EPDM系ゴム製水切り材										V0001 0	
		13		m						単第0-0001 表 031010	
橋梁補修工										Y1G0324 (レベル2)	
					一式						
ひび割れ補修工										Y1G032404 (レベル3)	
					一式						
低圧注入工法										Y1G03240402 (レベル4)	
					構造物						

本工事費 内訳書

頁0-0003

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 補修延べ延長25m未満の場合					S1020035 0 A=3, B=0.03, C=4, D=0.28, E=5, F=5
	1	構造物			単第0-0002 表 031010
断面修復工					Y1G032405 (レベル3)
		一式			
左官工法					Y1G03240501 (レベル4)
		構造物			
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.91m3	1	構造物			S1020041 0 A=0.91, B=6, C=0.91 単第0-0003 表 031010
鉄筋工 SD345_D16~D25 一般構造物 [規]10t未満	0.02	t			SS000099 0 A=1, B=6, D=1, E=1, F=2, H=1, I=1, J=1, K=1 単第0-0004 表 031010
殻運搬					Y1G03040205 (レベル4)
		m3			
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離10.9km以下(8.0km超)	1	m3			SPK21040138 0 A=1, B=1, C=2, D=44, E=1 単第0-0005 表 031010
殻処分					Y1G03040206 (レベル4)
		m3			
投棄料					#0041 C=投棄料
		一式			

本工事費 内訳書

頁0-0004

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
Co殻処分費 無筋					W0001
	2	t			
表面保護工					Y3999 (レベル3)
表面含浸工					Y4999 (レベル4)
表面含浸工					V0010 0
	40	m ²			単第0-0006 表 031010
根固め工					Y3999 (レベル3)
袋詰玉石工					Y4999 (レベル4)
袋詰玉石 2t用(長期性能型) 据付深さ4m以下及び作業半径5m以内					SPK21040197 0 A=1, B=1, C=1, D=1
	3	袋			単第0-0007 表 031010
モルタル充填					Y4999 (レベル4)
水中欠損部充填					V0011 0
	1	m ³			単第0-0008 表 031010

本工事費 内訳書

頁0-0005

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
型枠 一般型枠 鉄筋・無筋構造物						SPK21040142 0 A=1, B=1, C=1
	2	m2				単第0-0009 表 031010
橋梁保全工事 (吉谷古市新山線1号橋)			一式			Y1G03 (レベル1)
舗装工			一式			Y1G0304 (レベル2)
薄層舗装工						Y3999 (レベル3)
薄層舗装工						Y4999 (レベル4)
耐摩耗型複合薄層遮水性舗装 スーパーロメンパッチDN工法 相当	1	橋				V0022 0 単第0-0010 表 031010
橋梁付属物工			一式			Y1G0321 (レベル2)
伸縮部補修工						Y3999 (レベル3)
伸縮目地工						Y4999 (レベル4)

本工事費 内訳書

頁0-0006

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
目地材充填工 幅20mm×深さ40mm					V0021 0
	9	m			単第0-0011 表 031010
水切り設置工					Y3999 (レベル3)
水切り設置工					Y4999 (レベル4)
水切り設置工 EPDM系ゴム製水切り材					V0001 0
	8	m			単第0-0001 表 031010
橋梁補修工					Y1G0324 (レベル2)
		一式			
断面修復工					Y1G032405 (レベル3)
		一式			
左官工法					Y1G03240501 (レベル4)
		構造物			
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.7 m3	1	構造物			S1020041 0 A=0.7, B=6, C=0.7 単第0-0012 表 031010
鉄筋工 SD345_D16～D25 一般構造物 [規]10t未満	0.03	t			SS000099 0 A=1, B=6, D=1, E=1, F=2, H=1, I=1, J=1, K=1 単第0-0004 表 031010

03-*****-00003-40

米 子 市

本工事費 内訳書

頁0-0007

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
殻運搬					Y1G03040205 (レベル4)
		m3			
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離14.4km以下(10.9km超)	1	m3			SPK21040138 0 A=1, B=1, C=2, D=50, E=1 単第0-0013 表 031010
殻処分					Y1G03040206 (レベル4)
		m3			
投棄料					#0041 C=投棄料
		一式			
Co殻処分費 無筋	2	t			W0001
表面保護工					Y3999 (レベル3)
表面含浸工					Y4999 (レベル4)
表面含浸工					V0010 0
	17	m ²			単第0-0006 表 031010
床版下面増厚工					Y3999 (レベル3)

本工事費 内訳書

頁0-0008

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
床版下面増厚工						Y4999 (レベル4)
床版下面増厚						V0020 0
見積り	1		橋			単第0-0014 表 031010
仮設工						Y1G0328 (レベル2)
			一式			
交通管理工						Y1G032821 (レベル3)
			一式			
交通誘導警備員						Y1G03282101 (レベル4)
			人			
交通誘導警備員B						R0369 0
	15		人			031010 1
直接工事費						
現場環境改善費						Z0012
共通仮設費						

本工事費 内訳書

頁0-0009

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
＊ ＊ 共通仮設費計 ＊ ＊						
＊ ＊ 純工事費 ＊ ＊						
現場管理費						
＊ ＊ 工事原価 ＊ ＊						
一般管理費率分						
契約保証費						
一般管理費計						
＊ ＊ 工事価格 ＊ ＊						
＊ ＊ 消費税相当額 ＊ ＊						

本工事費 内訳書

頁0-0010

費目・工種・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
工事費計											

水切り設置工
EPDM系ゴム製水切り材

V0001

施 工 単 価 表

単第0-0001 表

頁0-0011

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.2	人			RTPC00009
特殊作業員	0.2	人			RTPC00001
普通作業員	0.2	人			RTPC00002
E P D M系ゴム製水切り材 ウォーターカッター 相当	10	m			F0000000001 見積り
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

施 工 単 価 表

ひび割れ補修工(低圧注入工法)
補修延べ延長25m未満の場合

S1020035

単第0-0002 表

1 構造物 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.500	人			RTPC00009
特殊作業員	2.400	人			RTPC00001
普通作業員	1.800	人			RTPC00002
エポキシ樹脂注入材 3種	0.030	kg			F0000000003
シーラ材	0.384	k g			F0000000004
注入器	5.000	個			F0000000005
諸雑費	6	%			見積り #09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=3 【F】 注入材(kg) C=4 【F】 シール材(kg) E=5 【F】 低圧注入器具(個)			B=0.03 注入材の必要数量(kg/構造物) D=0.28 シール材の設計数量(kg/構造物) F=5 低圧注入器具の必要数量(個/構造物)		
シーラ材の材料使用数量 = 設計数量(kg) * (1 + ロス率) = 0.280000000 * (1 + 0.37) = 0.384(kg) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					

施 工 単 価 表

単第0-0003 表

断面修復工(左官工法)
(鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)

S1020041
修復延べ体積0.91m3

1 構造物 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	20.930	人			RTPC00009
特殊作業員	34.580	人			RTPC00001
普通作業員	22.750	人			RTPC00002
ポリマーセメントモルタル	1.074	m3			F0000000006
諸雑費	11	%			県単価 #09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=0.91 1構造物当り修復延べ体積(m3/構造物) C=0.91 断面修復材の設計数量(m3/構造物)			B=6	【F】断面修復材(m3)	
土木一般世話役 = $V / 0.1 * D2 = 0.91000000 / 0.1 * 2.3 = 20.930$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め 特殊作業員 = $V / 0.1 * D2 = 0.910000000 / 0.1 * 3.8 = 34.580$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め 普通作業員 = $V / 0.1 * D2 = 0.910000000 / 0.1 * 2.5 = 22.750$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					
断面修復材の使用数量 = 設計数量(m3) * (1 + ロス率) = $0.91000000 * (1 + 0.18) = 1.074$ (m3) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鉄筋工 加工・組立共	1.000	t			TSPC00001
鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345D16～D25	1.030	t			TTPCD0072 1*1.03
諸雑費	1	一式			#91
*** 単位当たり ***	1	t			
A=1 - D=1 一般構造物 F=2 [規]10t未満			B=6 SD345_D16～D25 E=1 - H=1 -		
I=1 - K=1 -			J=1 -		

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	43.38%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
一般運転手	41.88%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 小型ローリー (パトロール給油)	14.74%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=44 運搬距離10.9km以下(8.0km超)		

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
下地処理	100	㎡			T0002 土木コスト情報21. 10月 P 442 9
含浸材塗布	100	㎡			T0003 土木コスト情報21. 10月 P 443 9
シラン系鉄筋腐食抑制材 プロテクトシルCIT相当	66	L			F0000000007 建設物価21. 10月P195 9
雑材料	5	%			#09
*** 合計 ***	100	㎡			
*** 単位当たり ***	1	㎡			

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料 山積0.8m3	2.10%		バックホウ [クローラ型クレーン付] 排ガス型(第2次)山積0.8m3吊2.9t		KTPC00006 KTPT00006
土木一般世話役	3.42%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
特殊作業員	3.41%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
特殊運転手	3.35%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	2.98%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
袋詰玉石用袋材 2t用(長期性能型) 積算物価21.10月P357	43.73%		袋型根固め用袋材 2t用,長期性能型,吊金具なし		TTPC00040 TTPT00040
割詰石 150mm 県単価	39.00%		詰石割栗石 150-200mm		TTPC00007 TTPT00007
軽油 小型ローリー (パトロール給油)	1.72%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
積算単価			積算単価		EP001
A=1 C=1 2t用(長期性能型) 購入材			B=1 D=1 据付深さ4m以下及び作業半径5m以内 -(全ての費用)		

水中欠損部充填

V0011

施 工 単 価 表

単第0-0008 表

頁0-0019

10 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.26	人			RTPC00009
特殊作業員	0.26	人			RTPC00001
普通作業員	0.52	人			RTPC00002
水中不分離性モルタル 太平洋プレユーロックスLC-MIX相当 (水中不分離性混和剤混入型)	10	m 3			F0000000009
雑材料	2	%			見積り #09
*** 合計 ***	10	m 3			
*** 単位当たり ***	1	m 3			

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
型わく工	47.45%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	24.97%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	8.89%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=1 鉄筋・無筋構造物		

耐摩耗型複合薄層遮水性舗装
スーパーロメンパッチDN工法 相当

V0022

施 工 単 価 表

頁0-0021
単第0-0010 表
1 橋 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1	人			RTPC00009
特殊作業員	2	人			RTPC00001
普通作業員	3	人			RTPC00002
特殊乳剤・骨材 スーパーロメンパッチ相当	49	組			F0000000013 見積り 9
アクリル系浸透系防水材 HQプライマー 相当	30	k g			F0000000014 見積り 9
珪砂 5号珪砂	25	k g			F0000000015 見積り 9
雑材料	7	%			#09
*** 単位当たり ***	1	橋			

目地材充填工
幅20mm×深さ40mm

V0021

施 工 単 価 表

単第0-0011 表

頁0-0022

20 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1	人			RTPC00009
防水工	2	人			RTA0052
普通作業員	1	人			RTPC00002
ゴム状弾性目地材 T S 目地ガードN 幅20mm×深さ40mm	26.9	k g			F0000000010 見積り9
マスキングテープ 21mm	48	m			F0000000011 見積り9
バックアップ材 幅20mm×深さ20mm	48	m			F0000000012 見積り9
雑材料	10	%			#09
*** 合計 ***	20	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

施 工 単 価 表

単第0-0012 表

1

構造物 当り

断面修復工(左官工法)
(鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)

S1020041

修復延べ体積0.7m3

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	16.100	人			RTPC00009
特殊作業員	26.600	人			RTPC00001
普通作業員	17.500	人			RTPC00002
ポリマーセメントモルタル	0.826	m 3			F0000000006
諸雑費	11	%			県単価 #09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=0.7 1構造物当り修復延べ体積(m3/構造物) C=0.7 断面修復材の設計数量(m3/構造物)			B=6	【F】断面修復材(m3)	
土木一般世話役 = $V / 0.1 * D2 = 0.70000000 / 0.1 * 2.3 = 16.100$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め 特殊作業員 = $V / 0.1 * D2 = 0.70000000 / 0.1 * 3.8 = 26.600$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め 普通作業員 = $V / 0.1 * D2 = 0.70000000 / 0.1 * 2.5 = 17.500$ (人) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					
断面修復材の使用数量 = 設計数量(m3) * (1 + ロス率) = $0.70000000 * (1 + 0.18) = 0.826$ (m3) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	43.38%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
一般運転手	41.88%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 小型ローリー (パトロール給油)	14.74%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=50 運搬距離14.4km以下(10.9km超)		

床版下面増厚

V0020

施 工 単 価 表

単第0-0014 表

頁0-0025

見積り 1 橋 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
樹脂導入路設置工 カッター	53.8	m ²			W0000000001 見積り 9
下地処理 サンダーケレン	16.8	m ²			W0000000002 見積り 9
網鉄筋取付工 D6@100×D13@75	16.8	m ²			W0000000003 見積り 9
アンカー打設工 テーパー付きT型アンカーネジ式 φ10×81	208	本			W0000000004 見積り 9
樹脂注入器具打設工 テーパー付きT型アンカー φ8×60	96	本			W0000000005 見積り 9
防錆材塗布工 プライマー	16.8	m ²			W0000000006 見積り 9
ホゼン材吹付工 t=29	16.8	m ²			W0000000007 見積り 9
ひび割れ注入工 超低粘度エポキシ樹脂	16.8	m ²			W0000000008 見積り 9
表面仕上げ工 ホゼン材 塗布	16.8	m ²			W0000000009 見積り 9
小規模補正	50	%			#09
*** 単位当たり ***	1	橋			

大沢川 1 号橋
数量計算書

1.1 排水装置工 (歩道部:下面)

1.1.1 排水管 (VP125)

$$L = 0.350 = 0.350 \text{ m}$$

1.1.2 塩化ビニール板 (200 × 200, t=8)

$$N = 1 = 1 \text{ 枚}$$

1.1.3 コンクリートアンカー (M8x65 相当)

$$N = 4 \times 1 = 4 \text{ 本}$$

1.2 水切り工

1.2.1 水切り材 (EPDM系ゴム製水切り材 W25×H20mm) (車道部下流側、歩道部上流側)

$$\begin{array}{rcccl} & \text{車道部下流側} & & \text{歩道部上流側} & \\ L = & 7.040 & + & 7.880 & = 14.920 \text{ m} \end{array}$$

1.2.2 下地処理

$$\begin{array}{rcccl} & L \text{ (m)} & & \text{幅 (m)} & \\ A = & 14.920 & \times & 0.025 & = 0.373 \text{ m}^2 \end{array}$$

1.2.3 接着剤塗布 (エポキシ樹脂系接着剤)

$$\begin{array}{rcccl} & L \text{ (m)} & & \text{幅 (m)} & \\ A = & 14.920 & \times & 0.025 & = 0.373 \text{ m}^2 \end{array}$$

1.3 伸縮目地工（目地材充填）

1.3.1 下地処理 （遊間部清掃）

$$L = 7.742 = 7.742 \text{ m}$$

1.3.2 目地材充填 （ゴム状高弾性目地材）

（１）（上幅）25×（下幅平均）4×（深さ）20mm

$$L1 = 7.742 = 7.742 \text{ m}$$

1.4 橋梁用防護柵工（部材部分取替）

1.4.1 部材撤去・設置（ガードパイプ）（歩道部転落防止策）

(1) ビーム取替え (厚さ)
($\phi 42.7 \times 2.3$ L=3000mm/本)

$$N = 8 = 8 \text{ 本}$$

(2) ビーム取替え (厚さ)
($\phi 42.7 \times 2.3$ L=1530mm/本)

$$N = 4 = 4 \text{ 本}$$

(3) 撤去・処分

$$L=3000 : 7 \times 8 = 56.0 \text{ kg} \\ (7\text{kg})$$

$$L=1530 : 3.6 \times 4 = 14.4 \text{ kg} \\ (3.6\text{kg})$$

$$W = (56.0 + 14.4) / 1000 = 0.07 \text{ t}$$

1.5 ひびわれ補修工

1.5.1 低圧注入工法（ひびわれ注入工）

（１） 延べ施工量 （車道部 床版）

１） エポキシ樹脂注入材3種

$$L = 1.30 = 1.30 \text{ m}$$

（２） シール材

１） エポキシ樹脂系

$$\Sigma L = 1.30 \text{ m (総延長)}$$

$$w = 0.050 \text{ m (幅)}$$

$$t = 0.003 \text{ m (厚さ)}$$

$$\gamma = 1.60 \text{ t/m}^3 \text{ (単位体積重量)}$$

$$W = 1.30 \times 0.050 \times 0.003 \times 1.60 \times 1000 \text{ kg/t} = 0.31 \text{ kg}$$

（３） 注入材

１） エポキシ樹脂注入材3種

$$\Sigma L = 1.30 \text{ m (総延長)}$$

$$w = 0.0002 \text{ m (幅 荷重平均)}$$

$$h = 0.040 \text{ m (深さ 荷重平均)}$$

$$\gamma = 1.15 \text{ t/m}^3 \text{ (単位体積重量)}$$

$$\text{ロス率 } 37\%$$

$$W = 1.30 \times 0.00020 \times 0.040 \times 1.15 \times 1.37 = 0.00002 \text{ ton}$$
$$\text{ロス率}37\% = 0.02 \text{ kg}$$

（４） 注入器 （低圧注入器）

・ 設置間隔：250mm間隔

$$\Sigma L = 1.30 \text{ m (総延長)}$$

$$N = 1.30 / 0.25 = 6 \text{ 個}$$

1.5.2 ひびわれ延長数量計算書

番号	部 位	ひびわれ				遊離石灰を伴う		深さ t (mm)	備 考
		w (mm)		L (m)		L (m)			
1	車道部 床版下面								
3		0.20		0.50				40	
5		0.20		0.80				40	
	小計			1.30					注入：エポキシ3種
0.2≦w<0.5mm 合計延長		幅 荷重平均		1.30		-		深さ 荷重 平均	
0.5≦w<1.0mm 合計延長		(注入工のみ)		-		-			
1.0≦w≦5.0mm 合計延長		0.20		-		-			
5.0mm<w 合計延長		-		-		-		40	
遊離石灰を伴う 合計延長		-		-		-			
		w<0.2mm	0.2≦w<0.5mm	0.5≦w<1.0mm	1.0≦w≦5.0mm	5.0mm<w	遊離石灰を伴う	合 計	
注入：エポキシ1種合計		-	-	-	-	-	-	-	
注入：エポキシ2種合計		-	-	-	-	-	-	-	
注入：エポキシ3種合計		-	1.30	-	-	-	-	1.30	
注入：セメント系合計		-	-	-	-	-	-	-	
注入：亜硝酸 + エポキシ3種合計		-	-	-	-	-	-	-	
注入：亜硝酸 + セメント系合計		-	-	-	-	-	-	-	
充填：ポリマーセメント系合計		-	-	-	-	-	-	-	
充填：可とう性エポキシ樹脂系合計		-	-	-	-	-	-	-	
充填：シーラント系合計		-	-	-	-	-	-	-	
合 計		-	1.30	-	-	-	-	1.30	

1.6 断面修復工（左官工法）

※断面修復深さは、はつり調査結果より40mmとした。

1.6.1 左官工法

（１） 延べ施工量 （車道部： 床版下面、主桁）

１） ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$v1 = 0.313 = 0.313 \text{ m}^3$$

$$v2 = 0.313 \times \underset{\text{ロス率18\%}}{0.18} = 0.056 \text{ m}^3$$
$$\Sigma V = 0.369 \text{ m}^3$$

1.6.2 殻運搬

（１） コンクリート構造物 人力積込

$$V = 0.313 = 0.313 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

1.6.3 殻処分（がれき類）

$$V = 0.313 = 0.313 \text{ m}^3$$

$$W = 0.313 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.734 \text{ t}$$

1.6.4 左官工法 数量計算書

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備 考
D	車道部 床版、桁						
1	床版 (鉄筋露出)	0.40 × 6.50	2.600	0.040	3.152	0.1040	
2		0.40 × 0.20	0.080	0.040	0.128	0.0032	
3		0.60 × 0.15	0.090	0.040	0.150	0.0036	
4		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
5		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
6		0.20 × 0.20	0.040	0.040	0.072	0.0016	
7		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
8		0.80 × 0.15	0.120	0.040	0.196	0.0048	
9		0.80 × 0.15	0.120	0.040	0.196	0.0048	
10		0.80 × 0.15	0.120	0.040	0.196	0.0048	
11	主桁 G2 (鉄筋露出)	0.15 × 0.10	0.015	0.040	0.035	0.0006	
12		0.15 × 0.10	0.015	0.040	0.035	0.0006	
13		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
14		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
15		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
16		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
17		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
18		0.20 × 0.10	0.020	0.040	0.044	0.0008	
19		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
20		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
21		0.15 × 0.10	0.015	0.040	0.035	0.0006	
22		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
23		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
24		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
25		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
26		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
27		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
28		0.20 × 0.10	0.020	0.040	0.044	0.0008	
29		0.10 × 0.20	0.020	0.040	0.044	0.0008	
30		0.25 × 0.10	0.025	0.040	0.053	0.0010	
31		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
32		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
33	床版	0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
34	(鉄筋露出)	0.40 × 0.10	0.040	0.040	0.080	0.0016	
35	床版(豆板)	0.15 × 0.20	0.030	0.040	0.058	0.0012	
36	床版(鉄筋露出)	0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
37	主桁 G3	0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
38	(豆板)	0.20 × 0.20	0.040	0.040	0.072	0.0016	
39	主桁 G3 (鉄筋露出)	0.15 × 0.10	0.015	0.040	0.035	0.0006	
40		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
41		0.20 × 0.10	0.020	0.040	0.044	0.0008	
42		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
43		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
44		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
45		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
46		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
47		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
48		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
49		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
50		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備 考
51	主桁 G3	0.20 × 0.10	0.020	0.040	0.044	0.0008	
52	(鉄筋露出)	0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
53	床版(豆板)	0.25 × 0.15	0.038	0.040	0.070	0.0015	
54	床版 (鉄筋露出)	0.20 × 0.10	0.020	0.040	0.044	0.0008	
55		0.80 × 0.15	0.120	0.040	0.196	0.0048	
56		0.15 × 0.15	0.023	0.040	0.047	0.0009	
57		0.45 × 0.10	0.045	0.040	0.089	0.0018	
58		0.40 × 0.15	0.060	0.040	0.104	0.0024	
59		0.15 × 0.45	0.068	0.040	0.116	0.0027	
60		0.20 × 0.10	0.020	0.040	0.044	0.0008	
61		0.20 × 0.15	0.030	0.040	0.058	0.0012	
62		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
63		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
64	主桁 G4 (鉄筋露出)	0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
65		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
66		0.15 × 0.10	0.015	0.040	0.035	0.0006	
67		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
68		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
69		0.35 × 0.10	0.035	0.040	0.071	0.0014	
70		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
71		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
72		0.25 × 0.10	0.025	0.040	0.053	0.0010	
73		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
74		0.15 × 0.10	0.015	0.040	0.035	0.0006	
75		0.30 × 0.15	0.045	0.040	0.081	0.0018	
76		0.30 × 0.10	0.030	0.040	0.062	0.0012	
77		0.20 × 0.10	0.020	0.040	0.044	0.0008	
78		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
79		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
80		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
81		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
82		0.10 × 0.10	0.010	0.040	0.026	0.0004	
83		0.15 × 0.10	0.015	0.040	0.035	0.0006	
84	主桁 G4 (うき)	1.25 × 0.30	0.375	0.040	0.499	0.0150	
85	床版	0.35 × 1.10	0.385	0.040	0.501	0.0154	
86	(鉄筋露出)	0.50 × 3.70	1.850	0.040	2.186	0.0740	
87		0.50 × 0.75	0.375	0.040	0.475	0.0150	
	小計		7.814		11.258	0.3125	ケレン・防錆:有
鉄筋ケレン・防錆処理を含む合計			7.814		11.258	0.313	
鉄筋ケレン・防錆処理を含まない合計							
	合計		7.814		11.258	0.313	

1.7 表面保護工（表面含浸工）

1.7.1 表面含浸工（シラン系鉄筋腐食抑制材）（車道：床板、主桁）

（１） 下地処理（サンダーケレン）

$$A = 53.742 = 53.742 \text{ m}^2$$

（２） 含浸材塗布工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$A = 53.742 = 53.742 \text{ m}^2$$

（３） 含浸材（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$v1 = 53.742 \times 0.60 \text{ ℓ/ m}^2 = 32.245 \text{ ℓ}$$

標準使用量

$$v2 = 32.245 \times 0.05$$

ロス率5%

$$\begin{array}{r} = 1.612 \text{ ℓ} \\ \hline \Sigma W = 33.857 \text{ ℓ} \end{array}$$

1.7.2 表面保護工数量計算書

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m)	個数	面積 (m ²)	備 考
P	車道部：床板、桁				
1	主桁 G1	$\frac{1}{2} \times (7.065 + 7.069) \times 0.212$	1	1.498	
2		7.069×0.260	1	1.838	
3		$\frac{1}{2} \times (6.546 + 6.566) \times 0.350$	1	2.295	
4		7.089×0.260	1	1.843	
5		$\frac{1}{2} \times (7.089 + 7.095) \times 0.212$	1	1.504	
6	床版	$\frac{1}{2} \times (7.095 + 7.139) \times 0.800$	1	5.694	
7	主桁 G2	$\frac{1}{2} \times (7.139 + 7.143) \times 0.212$	1	1.514	
8		7.143×0.260	1	1.857	
9		$\frac{1}{2} \times (6.620 + 6.639) \times 0.350$	1	2.320	
10		7.163×0.260	1	1.862	
11		$\frac{1}{2} \times (7.163 + 7.169) \times 0.212$	1	1.519	
12	床版	$\frac{1}{2} \times (7.169 + 7.213) \times 0.800$	1	5.753	
13	主桁 G3	$\frac{1}{2} \times (7.213 + 7.217) \times 0.212$	1	1.530	
14		7.217×0.260	1	1.876	
15		$\frac{1}{2} \times (6.694 + 6.713) \times 0.350$	1	2.346	
16		7.237×0.260	1	1.882	
17		$\frac{1}{2} \times (7.237 + 7.242) \times 0.212$	1	1.535	
18	床版	$\frac{1}{2} \times (7.242 + 7.287) \times 0.800$	1	5.812	
19	主桁 G4	$\frac{1}{2} \times (7.287 + 7.291) \times 0.212$	1	1.545	
20		7.291×0.260	1	1.896	
21		$\frac{1}{2} \times (6.768 + 6.787) \times 0.350$	1	2.372	
22		7.310×0.260	1	1.901	
23		$\frac{1}{2} \times (7.310 + 7.316) \times 0.212$	1	1.550	
	小計			53.742	
	合計			53.742	

市道新山4号線1号橋
数量計算書

1.1 水切り設置工

1.1.1 水切り材 (EPDM系ゴム製水切り材 W25×H20mm)

$$L = \begin{array}{ccc} & \text{下流側} & \text{上流側} \\ & 4.510 & + \quad 8.240 \end{array} = 12.750 \text{ m}$$

1.1.2 下地処理

$$A = \begin{array}{ccc} & (\text{L}) & (\text{幅}) \\ & 12.750 & \times \quad 0.025 \end{array} = 0.319 \text{ m}^2$$

1.1.3 接着剤塗布 (エポキシ樹脂系接着剤)

$$A = \begin{array}{ccc} & (\text{L}) & (\text{幅}) \\ & 12.750 & \times \quad 0.025 \end{array} = 0.319 \text{ m}^2$$

1.2 ひびわれ補修工

1.2.1 低圧注入工法（ひびわれ注入工）

（１） 延べ施工量 （床版 上流拡幅部）

1) エポキシ樹脂注入材3種

$$L = 1.15 \text{ m} = 1.15 \text{ m}$$

$$\Sigma L = 1.15 \text{ m}$$

（２） シール材

1) エポキシ樹脂系

$$\Sigma L = 1.15 \text{ m} \text{ (総延長)}$$

$$w = 0.050 \text{ m} \text{ (幅)}$$

$$t = 0.003 \text{ m} \text{ (厚さ)}$$

$$\gamma = 1.60 \text{ t/m}^3 \text{ (単位体積重量)}$$

$$W = 1.15 \times 0.050 \times 0.003 \times 1.60 \times 1000 = 0.28 \text{ kg}$$

（３） 注入材

1) エポキシ樹脂注入材3種

$$\Sigma L = 1.15 \text{ m} \text{ (総延長)}$$

$$w = 0.0003 \text{ m} \text{ (幅 荷重平均)}$$

$$h = 0.059 \text{ m} \text{ (深さ 荷重平均)}$$

$$\gamma = 1.15 \text{ t/m}^3 \text{ (単位体積重量)}$$

$$\text{ロス率 } 37\%$$

$$W = 1.15 \times 0.00030 \times 0.059 \times 1.15 \times 1.37 = 0.00003 \text{ ton}$$

ロス率37% = 0.03 kg

（４） 注入器 （低圧注入器）

・ 設置間隔：250mm間隔

$$\Sigma L = 1.15 \text{ m} \text{ (総延長)}$$

$$N = 1.15 / 0.25 = 5 \text{ 個}$$

1.2.2 ひびわれ延長数量計算書

番号	部 位	ひびわれ		遊離石灰を伴う		深さ t (mm)	備 考	
		w (mm)	L (m)	L (m)				
T	桁下面							
1		0.40	0.55			80		
2		0.20	0.30			40		
5		0.20	0.30			40		
	小計		1.15				注入：エポキシ3種	
0.2≦w<0.5mm 合計延長	幅 荷重平均 (注入工のみ)	1.15		-		深さ 荷重 平均		
0.5≦w<1.0mm 合計延長		-		-				
1.0≦w≦5.0mm 合計延長		0.30		-				
5.0mm<w 合計延長		-		-		59		
遊離石灰を伴う 合計延長		-		-				
		w<0.2mm	0.2≦w<0.5mm	0.5≦w<1.0mm	1.0≦w≦5.0mm	5.0mm<w	遊離石灰を伴う	合 計
注入：エポキシ1種合計		-	-	-	-	-	-	-
注入：エポキシ2種合計		-	-	-	-	-	-	-
注入：エポキシ3種合計		-	1.15	-	-	-	-	1.15
注入：セメント系合計		-	-	-	-	-	-	-
注入：亜硝酸 + エポキシ3種合計		-	-	-	-	-	-	-
注入：亜硝酸 + セメント系合計		-	-	-	-	-	-	-
充填：ポリマーセメント系合計		-	-	-	-	-	-	-
充填：可とう性エポキシ樹脂系合計		-	-	-	-	-	-	-
充填：シーラント系合計		-	-	-	-	-	-	-
合 計		-	1.15	-	-	-	-	1.15

1.3 断面修復工（左官工法）

※断面修復深さは、はつり調査結果および鉄筋腐食状況より80mmとした。

1.3.1 左官工法

（１） 延べ施工量

１） ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$v1 = 0.912 = 0.912 \text{ m}^3$$

$$v2 = 0.912 \times \frac{0.18}{\text{ロス率18\%}} = 0.164 \text{ m}^3$$
$$\Sigma V = 1.076 \text{ m}^3$$

1.3.2 鉄筋

（１） SD345 D16以上D25以下

$$W = \frac{21}{D22} = 21 \text{ kg}$$

1.3.3 鉄筋工（鉄筋追加）（一般構造物）

$$W = 21 = 21 \text{ kg}$$

1.3.4 殻運搬

（１） コンクリート構造物 人力積込

$$V = 0.912 = 0.912 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

1.3.5 殻処分（がれき類）

$$V = 0.912 = 0.912 \text{ m}^3$$

$$W = 0.912 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 2.143 \text{ t}$$

1.3.6 左官工法 数量計算書

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備 考
D	床版 下面						
1	下流拡幅部 (豆板)	1.00 × 0.50	0.500	0.080	0.740	0.0400	
3		1.30 × 0.50	0.650	0.080	0.938	0.0520	
5		0.40 × 0.40	0.160	0.080	0.288	0.0128	
6		0.70 × 0.70	0.490	0.080	0.714	0.0392	
7		0.15 × 0.30	0.045	0.080	0.117	0.0036	
8		0.30 × 1.80	0.540	0.080	0.876	0.0432	
9		0.30 × 2.20	0.660	0.080	1.060	0.0528	
10	中央部 (鉄筋露出)	0.20 × 0.20	0.040	0.080	0.104	0.0032	
11		0.20 × 0.20	0.040	0.080	0.104	0.0032	
12		0.30 × 0.30	0.090	0.080	0.186	0.0072	
13		1.10 × 0.20	0.220	0.080	0.428	0.0176	
14		0.70 × 0.30	0.210	0.080	0.370	0.0168	
15		1.30 × 0.50	0.650	0.080	0.938	0.0520	
16	中央部 (うき)	0.30 × 0.10	0.030	0.080	0.094	0.0024	
17		0.30 × 0.10	0.030	0.080	0.094	0.0024	
18		0.20 × 0.10	0.020	0.080	0.068	0.0016	
19		0.20 × 0.10	0.020	0.080	0.068	0.0016	
20		0.20 × 0.10	0.020	0.080	0.068	0.0016	
21	中央部(鉄筋露出)	0.30 × 0.30	0.090	0.080	0.186	0.0072	
22	中央部 (うき)	0.30 × 0.10	0.030	0.080	0.094	0.0024	
23		0.20 × 0.10	0.020	0.080	0.068	0.0016	
24		0.20 × 0.10	0.020	0.080	0.068	0.0016	
25		0.30 × 0.25	0.075	0.080	0.163	0.0060	
26	中央部(鉄筋露出)	0.20 × 0.20	0.040	0.080	0.104	0.0032	
27	中央部 (うき)	0.15 × 0.10	0.015	0.080	0.055	0.0012	
28		0.20 × 0.10	0.020	0.080	0.068	0.0016	
29		0.35 × 0.10	0.035	0.080	0.107	0.0028	
30	中央部(鉄筋露出)	0.30 × 0.15	0.045	0.080	0.117	0.0036	
31	上流拡幅部	3.20 × 0.90	2.880	0.080	3.536	0.2304	
32	鉄筋露出)	4.40 × 0.50	2.200	0.080	2.984	0.1760	
33		1.80 × 0.45	0.810	0.080	1.170	0.0648	
34	下流拡幅部(豆板)	0.45 × 0.10	0.045	0.080	0.133	0.0036	
35	上流拡幅部 (豆板)	0.25 × 1.00	0.250	0.080	0.450	0.0200	
36		0.25 × 1.00	0.250	0.080	0.450	0.0200	
37		0.40 × 0.40	0.160	0.080	0.288	0.0128	
	小計		11.400		17.296	0.9120	ケレン・防錆:有
鉄筋ケレン・防錆処理を含む合計			11.400		17.296	0.912	
鉄筋ケレン・防錆処理を含まない合計							
	合計		11.400		17.296	0.912	

1.4 表面保護工（表面含浸工）

1.4.1 表面含浸工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

（１） 下地処理（サンダーケレン）

$$A = 40.107 = 40.107 \text{ m}^2$$

（２） 含浸材塗布工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$A = 40.107 = 40.107 \text{ m}^2$$

（３） 含浸材（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$v1 = 40.107 \times 0.60 \text{ ℓ/ m}^2 = 24.064 \text{ ℓ}$$

標準使用量

$$v2 = 24.064 \times 0.05$$

ロス率5%

$$\begin{array}{r} = 1.203 \text{ ℓ} \\ \hline \Sigma W = 25.267 \text{ ℓ} \end{array}$$

1.4.2 表面保護工数量計算書

[illegible]

1.5 根固め工

1.5.1 袋詰玉石工（袋詰め玉石2.0t用）

$$V = 0.500 \times 2.0 + 0.250 \times 5.0 = 2.250 \text{ m}^3$$

$$N = 2.250 / 1.200 + 1 = 3 \text{ 個}$$

1.6 モルタル充填

1.6.1 水中欠損部充填 (水中不分離性モルタル プレミックスタイプ)

(1) 水中不分離性モルタル (プレミックスタイプ)

$$V = 0.190 \times 2.0 + 0.130 \times 5.0 = 1.030 \text{ m}^3$$

1.6.2 型枠工 (一般型枠)

$$A = 0.500 \times 2.0 + 0.250 \times 5.0 = 2.250 \text{ m}^2$$

吉谷古市新山線1号橋
数量計算書

1.1 舗装工

1.1.1 耐摩耗型薄層遮水性舗装工 (耐摩耗型複合薄層遮水性舗装材)

(1) 下地処理工 (路面洗浄)

$$A = 4.460 \times 4.100 = 18.286 \text{ m}^2$$

(2) 含浸材塗布工 (浸透系防水材)

$$A = 18.286 = 18.286 \text{ m}^2$$

(3) 含浸材 (浸透系防水材)

$$W1 = 18.286 \times 0.4 \text{ kg/m}^2 = 7.314 \text{ kg}$$

標準使用量

$$W2 = 7.314 \times 0.05 = 0.366 \text{ kg}$$

ロス率5%(メーカーより)

$$\Sigma W = 7.680 \text{ kg}$$

(4) 硅砂散布工 (5号硅砂)

$$A = 18.286 = 18.286 \text{ m}^2$$

(5) 硅砂 (5号硅砂)

$$W1 = 18.286 \times 0.8 \text{ kg/m}^2 = 14.629 \text{ kg}$$

標準使用量

$$W2 = 14.629 \times 0.05 = 0.731 \text{ kg}$$

ロス率5%(メーカーより)

$$\Sigma W = 15.360 \text{ kg}$$

(6) 薄層常温混合物敷設工 (耐摩耗型薄層常温混合物)

$$A = 18.286 = 18.286 \text{ m}^2$$

(7) 薄層常温混合物 (耐摩耗型薄層常温混合物)

$$W1 = 18.286 \times 10.00 \text{ kg/m}^2 = 182.860 \text{ kg}$$

標準使用量

$$W2 = 182.860 \times 0.20 = 36.572 \text{ kg}$$

ロス率20%(メーカーより)

$$\Sigma W = 219.432 \text{ kg}$$

1.2 伸縮部補修工（目地材充填）

1.2.1 下地処理（遊間部清掃）

$$L = 4.709 + 4.709 = 9.418 \text{ m}$$

1.2.2 目地材充填（ゴム状高弾性目地材）

（１）（幅）20×（厚さ）40mm

$$L1 = 4.709 + 4.709 = 9.418 \text{ m}$$

$$L2 = 9.418 \times 0.20 \quad \text{ロス率20\%} \quad \begin{array}{r} = 1.884 \text{ m} \\ \hline \Sigma L1 = 11.302 \text{ m} \end{array}$$

1.2.3 バックアップ材（ウレタンフォーム）

（１）（幅）20×（厚さ）40mm

$$L = 9.418 = 9.418 \text{ m}$$

$$v1 = \frac{L}{9.418} \times \frac{\text{（幅）}}{0.020} \times \frac{\text{（厚さ）}}{0.040} \times 1000 \text{ } \ell/\text{m}^3 = 7.534 \text{ } \ell$$

$$v2 = 7.534 \times 0.20 \quad \text{ロス率20\%} \quad \begin{array}{r} = 1.507 \text{ } \ell \\ \hline \Sigma V = 9.041 \text{ } \ell \end{array}$$

1.3 水切り工

1.3.1 水切り材 (EPDM系ゴム製水切り材 W25×H20mm)

$$L = 3.760 + 3.760 = 7.520 \text{ m}$$

1.3.2 下地処理

$$A = \frac{L}{\text{(幅)}} = 7.520 \times 0.025 = 0.188 \text{ m}^2$$

1.3.3 接着剤塗布 (エポキシ樹脂系接着剤)

$$A = \frac{L}{\text{(幅)}} = 7.520 \times 0.025 = 0.188 \text{ m}^2$$

1.4 断面修復工（左官工法）

※床版下面断面修復深さは、はつり調査結果より65mmとした。

1.4.1 左官工法

（１） 延べ施工量

１） ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$v1 = 0.714 = 0.714 \text{ m}^3$$

$$v2 = 0.714 \times \frac{0.18}{\text{ロス率18\%}} = 0.129 \text{ m}^3$$

$$\Sigma V = 0.843 \text{ m}^3$$

1.4.2 鉄筋

（１） SD345 D16以上D25以下

$$W = \frac{26}{D16} = 26 \text{ kg}$$

1.4.3 鉄筋工（鉄筋追加）（一般構造物）

$$W = 26 = 26 \text{ kg}$$

1.4.4 殻運搬

（１） コンクリート構造物 人力積込

$$V = 0.714 = 0.714 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

1.4.5 殻処分（がれき類）

$$V = 0.714 = 0.714 \text{ m}^3$$

$$W = 0.714 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 1.678 \text{ t}$$

1.4.6 左官工法 数量計算書

[illegible]

1.5 表面保護工（表面含浸工）

1.5.1 表面含浸工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

（１） 下地処理（サンダーケレン）

$$A = 16.863 = 16.863 \text{ m}^2$$

（２） 含浸材塗布工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$A = 16.863 = 16.863 \text{ m}^2$$

（３） 含浸材（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$v1 = 16.863 \times 0.66 \frac{\text{L}}{\text{m}^2} \text{ m}^2 = 11.130 \text{ L}$$

標準使用量

$$v2 = 11.130 \times 0.05$$

ロス率5%

$$\begin{array}{r} = 0.557 \text{ L} \\ \hline \Sigma W = 11.687 \text{ L} \end{array}$$

1.5.2 表面保護工数量計算書

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m)	個数	面積 (m ²)	備 考
P 1	床版下面				
		4.480 × 3.764	1	16.863	
	小計			16.863	
	合計			16.863	

1.6 床版下面増厚工

細別／規格	算 式 ／ 図	数 量
樹脂導入路設置工 カッター工 (深さ7～8mm)	延長 $L=3.760\text{m}$ 幅員方向 $B=4.480\text{m}$ 総延長 $L=4.480 \times 12(\text{行}) = 53.76 \text{ m}$	53.8 m
下地処理工 サンダーケレン	$A=4.480 \times 3.760 = 16.84 \text{ m}^2$	16.8 m ²
網鉄筋取付工 D6×100mm, D6×100mm	$A=4.480 \times 3.760 = 16.84 \text{ m}^2$	16.8 m ²
アンカー打設工 テーパー付きT型アンカー ボルト式(φ8×60)	$n=4.480/0.300(\text{ピッチ})+1=16 \text{ 本}$ $N=16 \text{ 本} \times 13(\text{列})=208 \text{ 本}$	208 本
樹脂注入器具 打設工 テーパー付きT型 (φ8×60)	$n=4.480/0.600(\text{ピッチ})+1=8 \text{ 本}$ $N1=8 \text{ 本} \times 6(\text{列})=48 \text{ 本}$ $N1'=8 \text{ 本} \times 6(\text{列})=48 \text{ 本}$ $\Sigma N=48+48=96 \text{ 本}$	96 本
防錆材塗布工 プライマー	$A=4.480 \times 3.760 = 16.84 \text{ m}^2$	16.8 m ²
ホゼン材#10 吹付工 t=22mm	$A=4.480 \times 3.760 = 16.84 \text{ m}^2$	16.8 m ²
ひび割れ注入工 超低粘度珪酸樹脂	$A=4.480 \times 3.760 = 16.84 \text{ m}^2$	16.8 m ²
表面仕上げ工 ホゼン#1塗布 (コート材)	$A=4.480 \times 3.760 = 16.84 \text{ m}^2$	16.8 m ²